

笹山縄文広場整備基本計画



令和7年7月

新潟県十日町市

序

十日町市の中央には、大河・信濃川が悠々と流れ、その兩岸には幾重もの河岸段丘が広がっています。この広大な段丘上には、約16,000年前に始まる縄文時代草創期から約3,000年前の晩期まで、約13,000年に渡り数多くの縄文遺跡が存在します。その中で、市内中条地区にある笹山遺跡から出土した火焰型土器群が、平成11年（1999）に縄文土器として最初の国宝に指定されました。この国宝「火焰型土器」は、縄文土器の代表として国内の様々な媒体で紹介され、また、数々の海外展に出品されるなど、日本における芸術の始原として高い評価を受けています。

当市では、国宝出土地「笹山遺跡」を地域の財（たから）として守り、後世に継承するとともに、文化観光資源として有効活用するため、「笹山縄文広場整備基本計画」を策定しました。また、この上位計画に位置付けられ、令和6年7月に国の認定を受けた「十日町市文化財保存活用地域計画」は、有形・無形の文化財を歴史文化遺産と定義して、これらを生かした文化観光を推進することにより、地域経済の活性化につながる好循環を作りだし、地域総がかりでまちづくりを行うことを目標としています。

結びに、このたび策定した笹山縄文広場整備基本計画の実現は、当市が目指す「選ばれて住み継がれるまちとおかまち」の一助となり、市内外を問わず多くの皆様からお越しいただける文化観光拠点になるものと確信しています。

基本計画の策定にあたり、多大なるご尽力を賜った整備検討委員会委員の皆様をはじめ、ご意見ご協力いただきました全ての皆様に心より厚くお礼申し上げますとともに、今後の整備事業につきましても、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和7年7月

十日町市長 関口 芳史

例 言

- 1 本書は、国宝「火焰型土器」出土地である十日町市指定史跡「笹山遺跡」の保存活用について記した計画である。
- 2 本計画は、十日町市教育委員会事務局教育文化部文化財課が主体となり、令和6年度に策定した。また、計画の策定にあたり、笹山縄文広場整備検討委員会を設置し、十日町市教育委員会が事務局を務めた。
- 3 本計画の策定に際しては、計画策定支援業務をTIT・Tetor共同企業体に委託した。
- 4 本書で示す方位は、すべて磁北である。また、挿図に使用した地図のうち、方位が明示されていないものは、真北が上である。
- 5 表紙の写真は、小川忠博氏の撮影によるものである。

目 次

第1章 計画の背景と目的

1 背景と目的	1
2 史跡指定範囲	1
3 関連計画の整理	2

第2章 史跡および周辺の現状

1 史跡周辺の歴史文化遺産等	5
2 史跡を取り巻く状況の整理	7
3 史跡および周辺の現況	9
4 史跡をめぐる経緯	10
5 史跡の活用状況	12

第3章 史跡概要の整理

1 史跡の価値と課題	15
2 施設整備の方向性	18

第4章 基本理念・基本方針

1 基本理念	20
2 基本方針	21

第5章 広場計画

1 ゾーニング	23
2 広場計画の方針	24
3 整備計画（I区）	25
4 整備イメージ（I区）	30
5 全体計画	33

第6章 体験プログラム計画

1 基本的な考え方	35
2 十日町市博物館等との周遊	38
3 縄文体験のイメージ	40

第7章 管理・運営計画

- 1 基本的な考え方 41
- 2 管理・運営計画 41
- 3 管理・運営体制 43
- 4 地域の参加 45

第8章 事業計画

- 1 事業スケジュール 46
- 2 概算事業費 46

附 編 笹山縄文広場整備検討委員会の記録

- 1 委員名簿 47
- 2 開催経過 47
- 3 事務局名簿 47

第1章 計画の背景と目的

1 背景と目的

十日町市指定史跡「笹山遺跡」（平成4年（1992）指定）は、国宝指定（平成11年（1999））の火焰型土器群が出土した縄文時代中・後期（約5,400～3,200年前）と、中世（鎌倉～戦国時代）を主体とする集落跡です。これまで同遺跡では、説明看板、モニュメント、復元竪穴住居を設置、芝生が植栽され、笹山縄文館（旧市民スポーツハウス）を中心として、「笹山じょうもん市」や縄文体験観光プログラム「十日町縄文ツアーズ」などの各種イベントで活用されてきました。また、令和2年（2020）6月には、国宝指定品を収蔵・展示する新しい十日町市博物館が市街地にオープン（新築移転）しています。

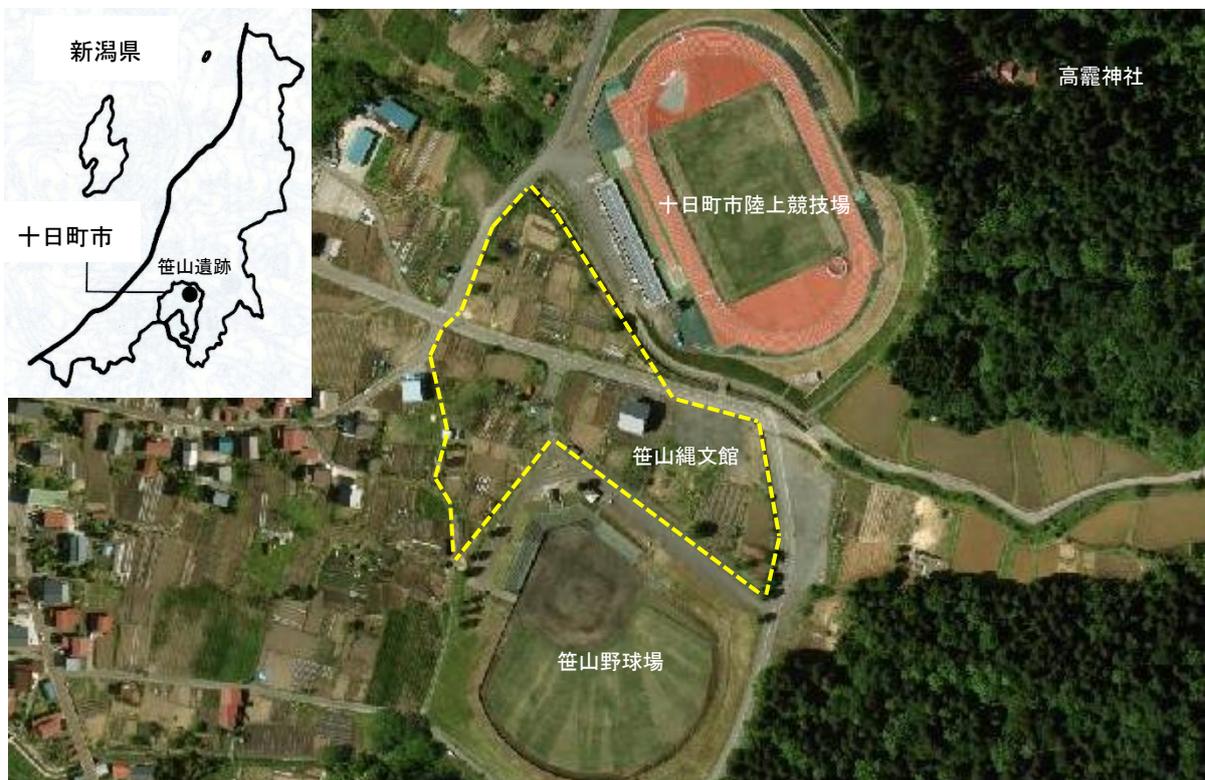


国宝・火焰型土器群

十日町市では、国宝出土地「笹山遺跡」を文化観光資源としてさらに有効活用するため、「笹山縄文広場整備基本計画」を策定します。本計画では、国宝を展示する博物館と縄文を体感する笹山遺跡を一体のものとして整備することで、地域文化と経済の活性化を目指します。

2 史跡指定範囲

史跡・笹山遺跡は博物館の北東約3km、十日町市中条上町地内に所在し、信濃川右岸の河岸段丘（沖積扇状地）上に立地しています。史跡指定地は、南北をそれぞれ十日町市陸上競技場と笹山野球場、東西を山林と住宅地に囲まれ、現況は主に畑地です。また、史跡指定範囲内の一部が、公有地化されています。

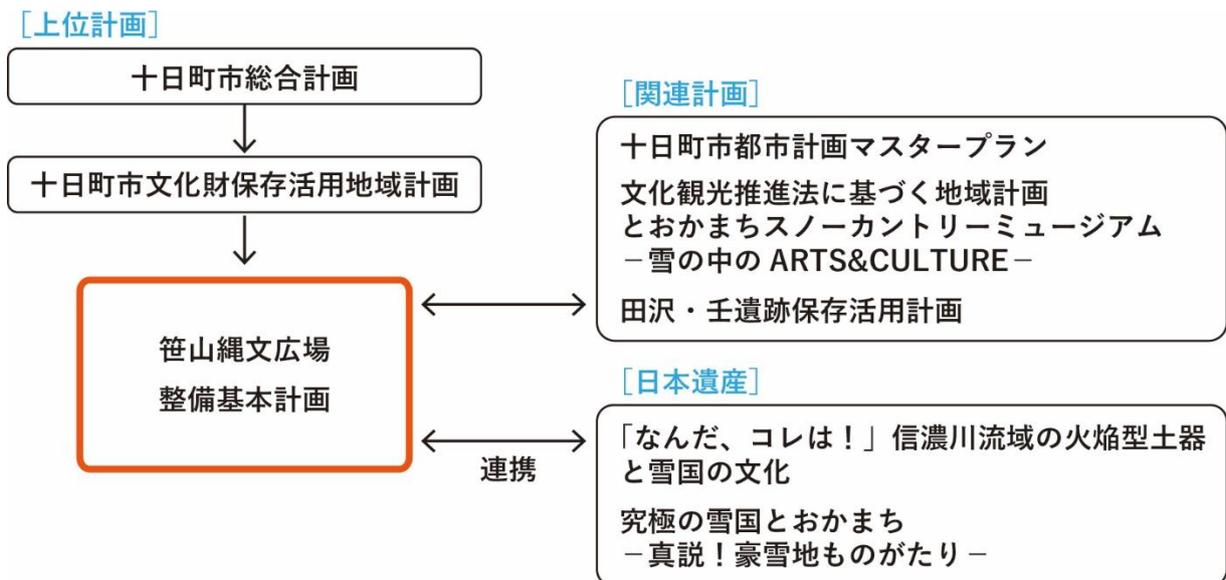


史跡指定範囲（黄色破線内）

3 関連計画の整理

(1) 計画の位置付け

本計画は、十日町市全体の総合的な計画である十日町市総合計画および文化財の保存と活用に関する十日町市文化財保存活用地域計画を上位計画、まちづくりや文化観光に関する計画を関連計画とし、また、日本遺産の取組み等と連携します。



(2) 上位・関連計画等

主な上位計画と関連計画について、笹山遺跡の保存・活用等に関連する記載内容を下記にまとめます。

① 第二次十日町市総合計画・後期基本計画 (R3.3、R3~7年度)

[概要]

市政運営の基本方針として、十日町市の各種計画の最上位に位置付けられます。基本構想と基本計画で構成され、基本構想は目指すまちの姿や政策の方針を示し、基本計画は基本構想を具体化する施策を示しています。

[笹山遺跡に関連する内容]

-施策-文化財の保存・活用の推進-文化財施設の整備と活用

「国宝出土地である笹山遺跡を中核に、国史跡「田沢・壬遺跡」や県指定「野首遺跡出土品」などの縄文遺跡の保存や活用を図ります。また、「生きた歴史体感プログラム」など縄文時代を体験・体感できる、ソフトプログラムを充実させます。」

-地域別の振興方策 [中条飛渡地域] -笹山遺跡周辺の整備・活用促進による地域活性化

「国宝・火焰型土器や笹山遺跡などの歴史資源とともに、陸上競技場、笹山野球場などのスポーツ施設を生かした地域振興を進めます。また、歴史的遺産である火焰型土器群を将来に受け継いでいくため、さらなる情報発信とともに、大地の芸術祭との連携や地域住民主体で始めた「じょうもん市」、「縄文レストラン」の運営など、地域の振興発展に向けた住民主体の活動を支援し、地域内の連携を一層促します。」

② 十日町市文化財保存活用地域計画 (R6. 7、R6～15 年度)

[概要]

十日町市内に所在する文化財の保存・活用に関するマスタープランおよびアクションプランです。

[笹山遺跡に関連する内容]

関連文化財群：火焰型土器が語る縄文人の暮らし

「火焰型土器を始めとした出土品は、縄文時代の人々の精神性や優れた造形感覚を伝える。厳しい自然環境のなかで生きる人々にとって、自然は豊かな恵みをもたらしてくれる一方で、畏怖や信仰の対象でもあった。逆巻く炎のような火焰型土器の力強かつ繊細な造形は、強烈な精神性と生命力の発露であり、見る者を圧倒する。」

【事業】発掘調査報告書の刊行、遺跡を拠点とした交流の場づくり、縄文体験観光プログラム事業、縄文川柳全国大会、重要遺跡パンフレットの作成、国宝との連携強化、信濃川火焰街道連携協議会の取組

文化財保存活用区域：笹山遺跡、野首遺跡および大井田城周辺区域

縄文時代中・後期の集落跡である笹山遺跡や野首遺跡、中世の大井田城跡などを中心とした区域。縄文時代から中世の歴史、さらに神宮寺などの歴史文化遺産が集積している。

【事業】野首遺跡土器解体修理事業、大井田城跡の整備、文化財保存活用計画の作成、国宝との連携強化、保存活用区域周遊サイン整備

③ 十日町市都市計画マスタープラン (R7. 3)

[概要]

十日町市の将来都市像を実現するため、都市計画の総合的な理念・目標と個別具体的な方針を定め、まちづくりの総合的な指針としての役割を果たします。

[笹山遺跡に関連する内容]

地域別構想 中条飛渡地域「自然に親しみ、いにしへの歴史資源を生かした地域づくり」

「国宝「火焰型土器」が出土した笹山遺跡周辺においては、遺跡の保存に努めるとともに、縄文時代を体感できる空間として整備を行い、市民の憩いの場と交流人口を創出し、地域経済の活性化を図ります。」

④ 十日町市地域計画「とおかまち スノーカントリーミュージアム

―雪の中の ARTS&CULTURE― (R2. 11、R2～6 年度)

[概要]

文化観光推進法に基づき、十日町市における文化観光拠点施設を中核として、観光を推進するために策定された計画です。官民の連携による体制を作り、文化観光推進事業者と連携のもと文化観光を推進していきます。

[笹山遺跡に関連する内容]

博物館等収蔵資料デジタルアーカイブ化事業

「博物館等が所蔵する文化財や標本等の文化資源の解説を充実させるため、収蔵資料等のデジタルアーカイブ化に取り組む。これにより文化資源等の公開やWEB等のネットワークを通じた利用も容易となり、展示や情報発信の充実が図られる。」[対象文化財]：国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57 点」(附 871 点) ほか

十日町市博物館所蔵文化遺産体験事業

「観光旅客が、十日町市博物館に所蔵する文化財「国宝 新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器 57 点 (附 871 点)」などの理解をより深められるよう、関連する事業者や宿泊施設等と連携し、所蔵文化財に関連する実体験を提供する。」

⑤ 「史跡 本ノ木・田沢遺跡群」田沢・壬遺跡保存活用計画 (R4.3)

[概要]

令和元年(2019)10月に国史跡に指定された、史跡「本ノ木・田沢遺跡群」のうち、十日町市に所在する田沢・壬遺跡について適切な管理を行いながら、次世代に保存・継承するとともに、地域の活性化に寄与する整備活用を推進します。

[笹山遺跡に関連する内容]

十日町市の歴史的環境・縄文時代早期～晩期

「本市においては、縄文時代中期(5,500～4,500年前)の遺跡が最も多く、火焰型土器が特徴的に出土している。特に笹山遺跡出土の土器群は平成11年(1999)に縄文土器としては初の国宝に指定されている。」

⑥ 日本遺産 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 (H28・2016認定) シリアル型 (新潟市、三条市、長岡市、魚沼市、十日町市、津南町)

[ストーリーの概要]

日本一の大河・信濃川の流域は、8,000年前の縄文時代に気候が変わり、世界有数の雪国となった。この雪国から5,000年前に誕生した「火焰型土器」は大仰な4つの突起をもち、縄文土器を代表するものである。縄文土器に美を発見した岡本太郎は、この土器を見て「なんだ、コレは！」と叫んだと言われている。火焰型土器は日本文化の源流であり、浮世絵、歌舞伎と並ぶ日本文化そのものなのである。

火焰型土器を作った人々のムラは信濃川流域に多く分布する。このムラの跡に佇めば、5,000年前と変わらぬ独特の景観を体験できる。また、山・川・海の幸とその加工・保存の技術、アンギンや火焰型土器の技を継承するようなモノづくりなど、信濃川流域には縄文時代に起源をもつ文化が息づいている。

[十日町市の構成文化財]

信濃川上流域縄文時代草創期遺跡群・出土品、久保寺南遺跡出土品、笹山遺跡出土品、幅上遺跡出土品、笹山遺跡、田代の七ツ釜、清津峡、美人林、川漁関係資料

⑦ 日本遺産 究極の雪国とおかまち—真説！豪雪地ものがたり— (R2・2020認定) 地域型

[ストーリーの概要]

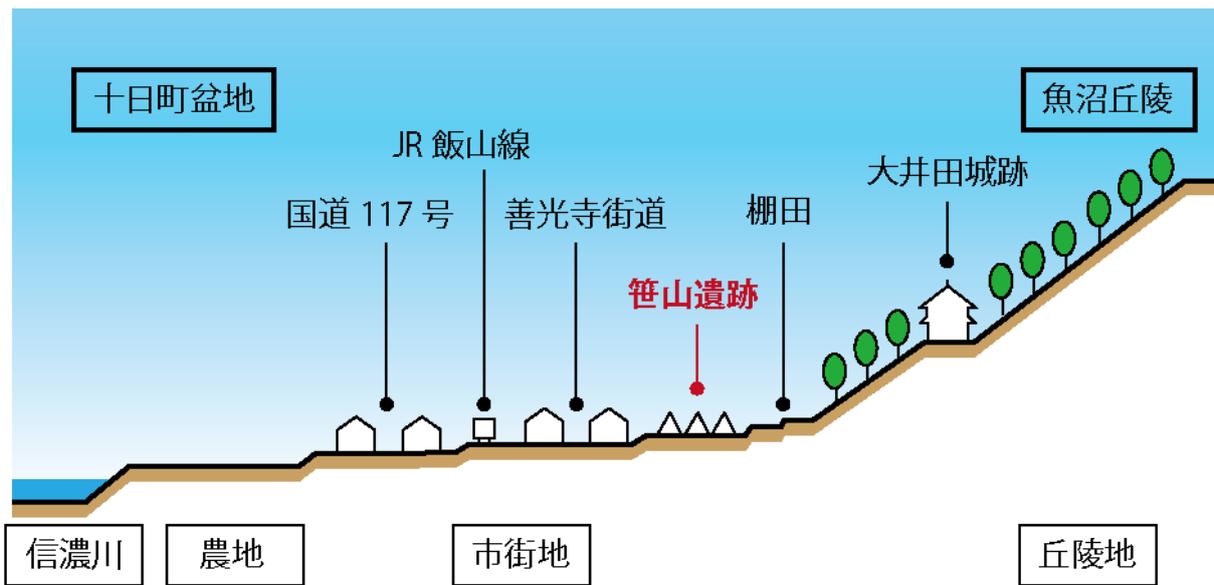
「世界有数の豪雪地として知られる新潟県十日町市。ここには豪雪に育まれた「着もの・食べもの・建もの・まつり・美」のものがたりが揃っている。人々は雪と闘いながらもその恵みを生かして暮らし、雪の中に楽しみさえも見出してこの地に住み継いできた。ここは真の豪雪地ものがたりを体感できる究極の雪国である。」

[構成文化財] (縄文時代)

笹山遺跡出土品、野首遺跡出土品、幅上遺跡出土品



笹山遺跡周辺の航空写真



信濃川・河岸段丘・笹山遺跡の断面イメージ

2 史跡を取り巻く状況の整理

(1) 十日町市博物館の入館者数

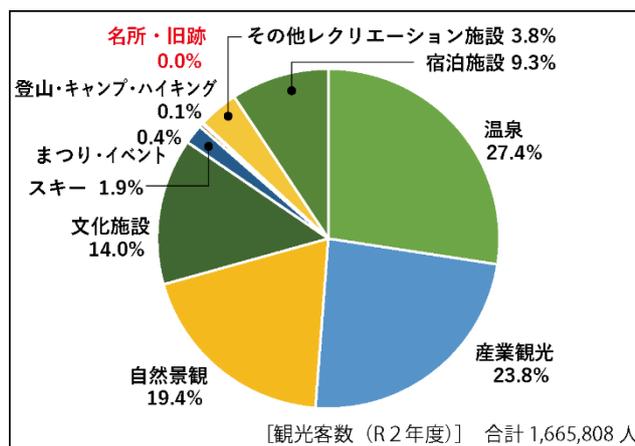
- 博物館は、昭和 54 年（1979）にオープンしました。現在の博物館は令和 2 年（2020）6 月に新築移転し、「国宝・火焰型土器のふるさとー雪と織物と信濃川ー」をテーマとした常設展示を行っています。また、国宝 1 件と重要有形民俗文化財 2 件を所蔵、展示しています。
- 特別展や講座、各種体験などの教育普及事業を行っており、ミュージアムショップも充実しています。
- 令和 6 年度（2024）の入館者数は約 30,000 人で、中学生以下の利用も多く、教育的な利用が積極的に行われています。



入館者数の推移（十日町市博物館年報より）

(2) 十日町市の観光客

- 十日町市を訪れる観光客の観光地点別の割合を見ると、温泉、大地の芸術祭を含む産業観光、自然景観、文化施設が多くなっています。
- 名所や史跡は、0.0%（600 人）とかなり少ない状況です。



観光地点別の割合（データで見る十日町 2022 より）

(3) 大地の芸術祭・来場者数

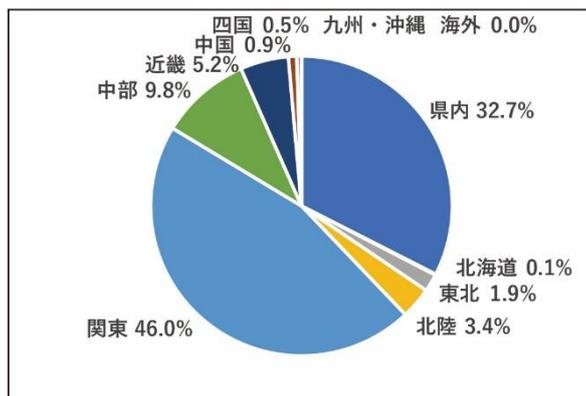
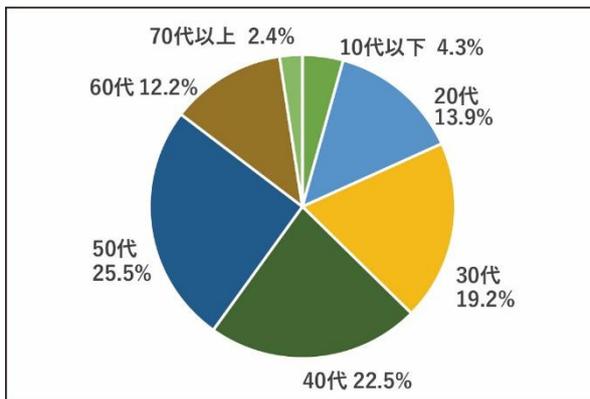
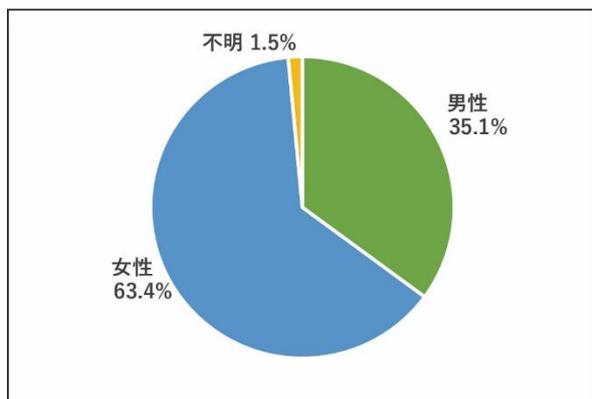
- 大地の芸術祭の来場者数は、回を重ねるとともに増加しており、十日町市の観光客数に占める割合も大きくなっています。
- 作品数も増加傾向にあり、作品の設置箇所は市の全域に広がっています。



大地の芸術祭来場者数の推移（データ提供は十日町市）

(4) 大地の芸術祭・来場者の構成（来場者アンケートより）

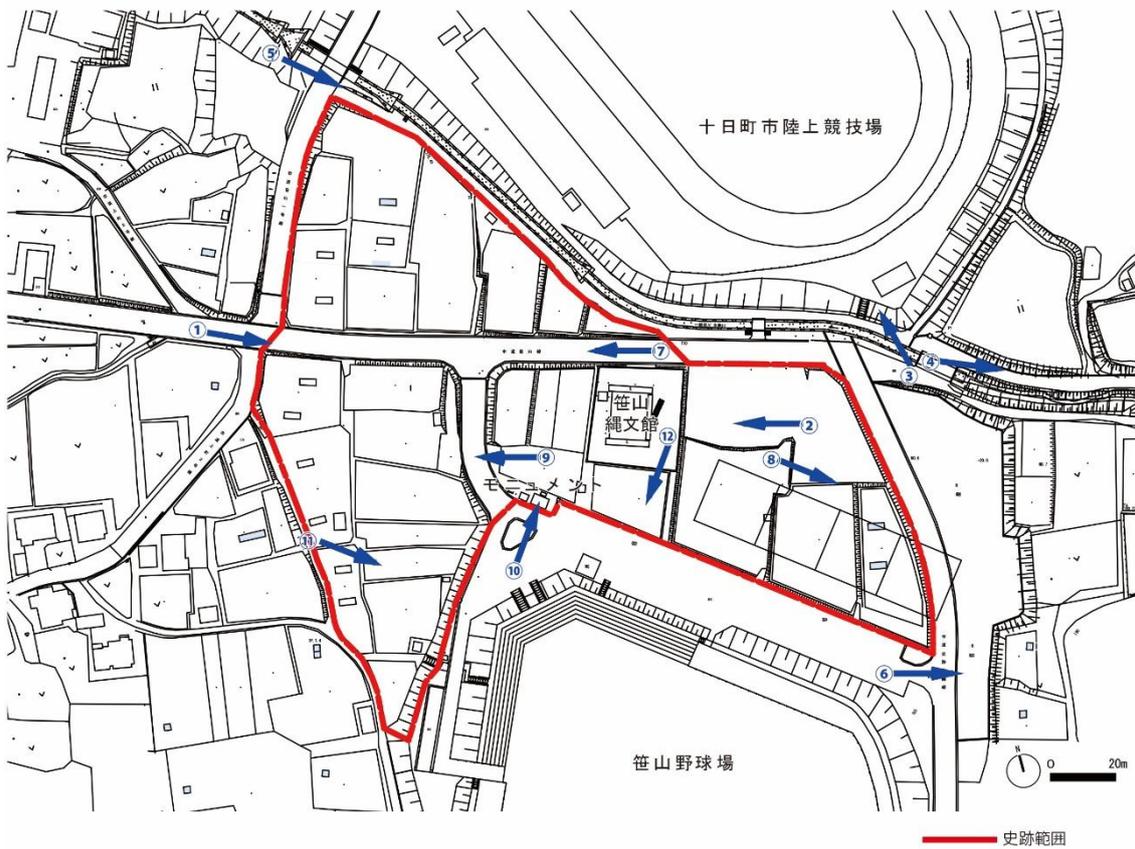
- ・女性が多く、男性の約2倍となっています。
- ・30～50代を中心として、幅広い年代が訪れています。
- ・関東が最も多く、全国から訪れています。
- ・令和4年（2022）はコロナ禍での開催のため、海外や国内遠方からの来場者は少ない状況でしたが、令和元年（2018）の開催時は海外からの来場者が8.7%を占めていました。



来場者数の属性（「越後妻有 大地の芸術祭 2022 総括報告書」より）

3 史跡および周辺の現況

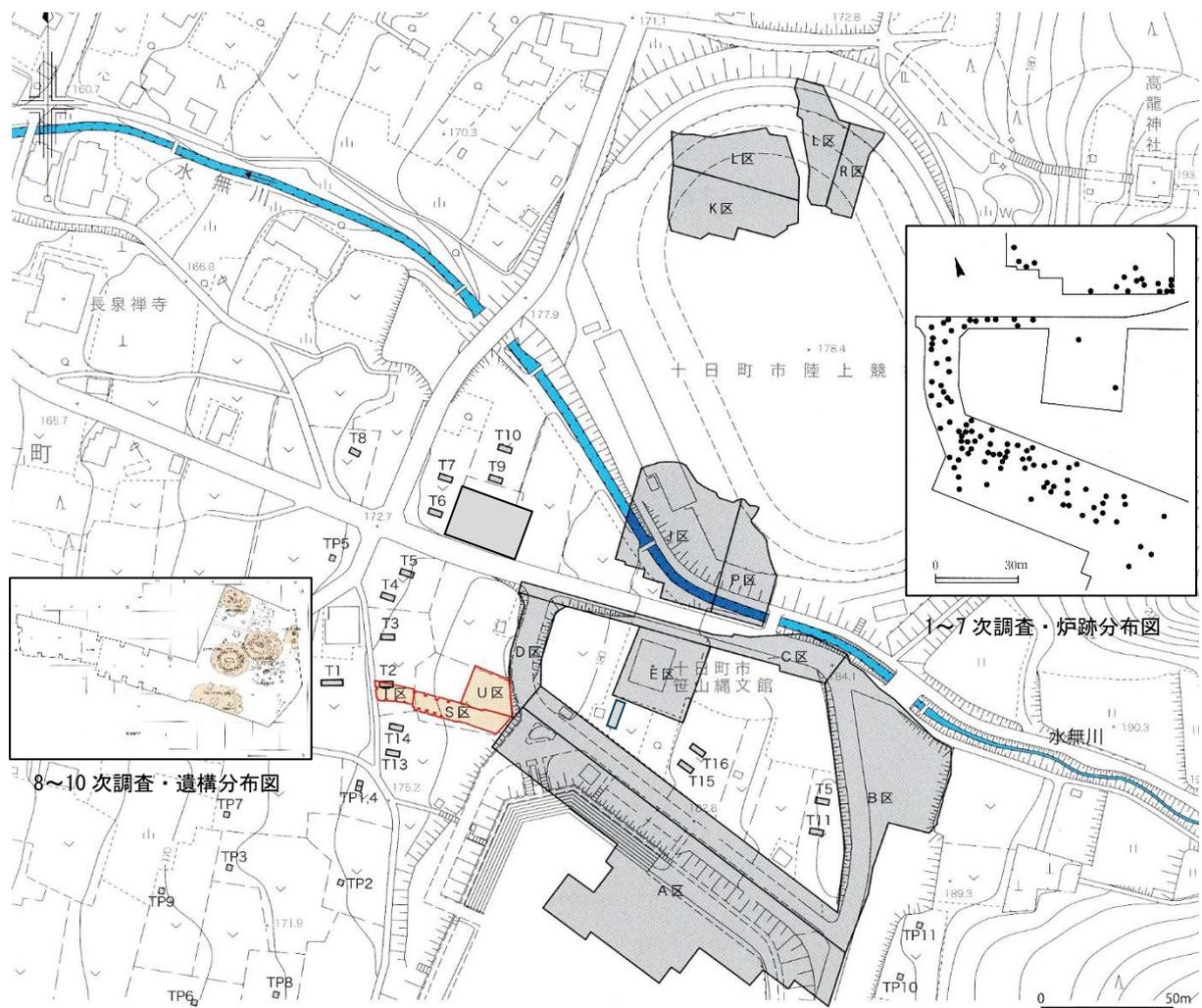
笹山遺跡は市史跡に指定され、遺跡広場として市民に開放されています。また、広場には笹山縄文館（管理施設）や縄文時代の復元竪穴住居2棟などが設置され、イベントや交流等の場として利用されています。



4 史跡をめぐる経緯

笹山遺跡では昭和 55 年（1980）以来、現在まで発掘調査が継続的に実施されています。昭和 55～60 年（1980～1985）には、笹山野球場や十日町市陸上競技場、市道の建設に伴い第 1～7 次調査が行われ、縄文時代中期の環状集落と中世の集落跡が発見されました。環状集落は、中央の広場を囲むように竪穴住居などが環状（または馬蹄形）に配置された集落です。その後、平成 14～16 年（2002～2004）には、遺跡の範囲確認調査が行われています。また、保存目的の学術調査として平成 23～25 年（2011～2013）に第 8～10 次、平成 30～令和 4 年（2018～2022）には第 11～14 次調査が断続的に行われています。

第 1～7 次調査で出土した遺物のうち、火焰型土器をはじめとする深鉢形土器 57 点のほかに、石鏃や石斧などの石器、耳飾りなどの装身具、土偶や石棒などの呪術具を含む出土品計 928 点が、平成 4 年（1992）に重要文化財、平成 11 年（1999）には国宝に指定されました。また、平成 4 年（1992）以降、遺跡の一部は市指定史跡として保存されています。以後、史跡内には標柱、説明案内板、国宝・火焰型土器出土モニュメント、復元竪穴住居、笹山縄文館（旧市民スポーツハウス）、簡易駐車場などが整備され、各種イベントの会場として活用されています。



発掘調査範囲（色塗り部分）

年 代	笹山遺跡出土品	笹 山 遺 跡	十日町市博物館
1979(S54)			十日町市博物館オープン (4/7)
1980(S55)		発掘調査 (1~7次、S60年まで)	
1982(S57)	国宝「火焰型土器」(No.1) 出土 (7/8)		
1992(H4)	「笹山遺跡出土品一括 928点」国重要文化財指定 文化庁「古代の日本展」(ワシントンD.C.) 出品【No.1ほか】	笹山遺跡(一部)が市指定史跡指定	
1997(H9)	火焰型土器 (No.1) が小学6年生の歴史教科書に初めて掲載		
1998(H10)	文化庁「縄文展」(パリ) 出品【No.1ほか】	『笹山遺跡発掘調査報告書』刊行	
1999(H11)	「笹山遺跡出土深鉢形土器 57点」国宝指定 (6/7)	「国宝館・火焰の都計画」諮問	開館・友の会設立 20周年 梅原猛氏が名誉館長就任 (H22まで)
2000(H12)	東京国立博物館「日本国宝展」出品【No.1ほか】	「笹山じょうもん市」始まる(継続) 「国宝館・火焰の都計画」答申	「大地の芸術祭」(第1回)始まる
2001(H13)	東京国立博物館「土器の造形 一縄文の動・弥生の静一」出品【No.6】 文化庁「古代日本の聖なる美術展」(大英博物館) 出品【No.1ほか】		
2002(H14)	国宝修理事業開始 (H22年まで)	「国宝館・火焰の都整備事業基本計画」策定 範囲確認調査 (H16年まで)	
2004 (H16)	中越大震災発生 (10/23)、指定品の土器 37点破損		
2005(H17)	九州国立博物館「海の道、アジアの路」出品【No.6ほか】		
2008(H20)		市民スポーツハウス(現笹山縄文館) 1階の使用権限をスポーツ振興課から文化財課に委譲	
2009(H21)	国宝指定 10周年	現遺跡広場造成工事(盛土・張芝) 史跡指定地内用地買収開始	開館・友の会設立 30周年
2010(H22)	東京国立博物館「日本の美 5000年」(イスタンブール) 出品【No.6】	復元竪穴住居 1棟設置 史跡指定地内用地の測量調査終了	
2011(H23)		市民スポーツハウスを「笹山縄文館」へ転用(条例施行) 笹山縄文館改修工事 復元竪穴住居 1棟設置 笹山縄文館・遺跡広場の維持管理委託開始(NPO 笹山縄文の里) 学術調査(第8~10次、H25年まで)	
2014(H26)	東京国立博物館「人間国宝展 一生み出された美、伝えゆく技一」出品【No.6】		新博物館建設の方針決まる
2015(H27)	九州国立博物館「美の国 日本」出品【No.6】		
2016(H28)	火焰型・王冠型土器 (No.1・15) の三次元計測(東京国立博物館)	『笹山遺跡発掘調査報告書(第8~10次)』刊行	日本遺産『「なんだ、コレは!」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』(シリアル型)認定
2017(H29)	京都国立博物館「国宝展」出品【No.1・6】		新博物館の建設工事が始まる
2018(H30)	火焰型土器 (No.1) の高精細レプリカ製作(陶製) 東京国立博物館「縄文 一1万年の美の鼓動一」出品【No.6】 ジャポニスム 2018「響きあう魂」(パリ) 出品【No.5・16】 ジャポニスム 2018「縄文 一日本における美の誕生一」(パリ) 出品【No.1】	学術調査(第11~14次、R4年まで)	
2019(H31)	王冠型土器 (No.15) の高精細レプリカ製作(陶製)		開館・友の会設立 40周年 国宝指定 20周年記念シンポジウム「縄文の国宝」開催
2020(R2)			新十日町市博物館オープン (6/1) 日本遺産「究極の雪国とおかまち」(地域型)認定
2024(R6)	国宝指定 25周年		開館・友の会設立 45周年

5 史跡の活用状況

(1) 笹山じょうもん市

平成 11 年（1999）6 月 7 日の笹山遺跡出土品の国宝指定を受けて、中条地区振興会では地元から遺跡の具体的な保存活用策を提案し、その実現を図るために、専門部会として笹山遺跡保存活用委員会が設立されました。

当時の委員会は、国宝指定 1 周年記念“笹山縄文の集い”を開催し、地域の年中行事に育てようとなりました。記念行事は、国宝指定 1 周年を機に地元の大勢が笹山遺跡に目を向け、国宝を身近に感じ、また、大人と子どもが連れだって、“笹山・縄文”で遊び、楽しむことができる行事にするという基本的な考え方にに基づき、平成 12 年（2000）6 月に第 1 回笹山じょうもん市が開催されました。それ以降、笹山じょうもん市は年 1 回開催され、令和 6 年（2024）6 月に第 25 回目を数えて、約 2,000 名の集客がありました。現在では、地域住民を中心とした手作りのイベントとして定着しています。



第 24 回笹山じょうもん市

(2) 笹山縄文カレッジ（ささやまラボ等含む）

笹山遺跡では、土器作りなど各種の縄文体験が行われています。運営は、学術発掘調査を契機に結成されたボランティアから発展した伊乎乃の里・縄文サポートクラブです（令和 3 年度までは委託、令和 4 年度以降は独自開催）。また、ささやまラボとして、遺跡から出土した土器の接合や拓本を作るなど、遺物の整理作業を体験する企画も行われています。



ささやまラボ



縄文土器をつくろう！



古代糸作り



ベンガラ染めTシャツ作り

年 度	取 組 内 容
平成 23 年	みんなで掘る笹山遺跡 (179 人)、遺跡体験・出前授業 (135 人) ささやまラボ 2012 (46 人)
平成 24 年	国宝出土地・笹山遺跡成果報告会 (300 人)、学校向けプログラム (174 人) ボランティアガイド講習会 (24 人)、みんなで掘る笹山遺跡 2012 (158 人) 笹山遺跡第 9 次調査 現地説明会・遺物展示 (601 人) 国宝出土地・笹山遺跡第 9 次調査成果速報展 (473 人) ささやまラボ 2013 (42 人)、笹山遺跡を考える会 (24 人)
平成 25 年	国宝出土地・笹山遺跡第 9 次調査成果報告会・出土品展示会 (391 人) 学校向けプログラム (261 人)、みんなで掘る笹山遺跡 2013 (333 人) 笹山夕日交流会 (40 人)、市民グループ向け発掘体験会 (11 人) 笹山遺跡第 10 次調査現地説明会 (60 人)、やきもち焼きの土器焼き会 (20 人) やきもち焼きの土器焼き会 第 2 回 (10 人)、ささやまラボ 2014 (43 人)
平成 26 年	笹山遺跡第 10 次調査成果報告・出土品展示会 (48 人) 縄文ミニトークライブ (1 人)、学校向けプログラム (249 人) 縄文土器をつくろう! (24 人)、笹山夕日交流会 2014 (35 人) JOMON×ORIMONO 展 (141 人)、ささやまラボ 2015 (30 人)
平成 27 年	笹山遺跡出土品展示会 (48 人)、園児たちのじょうもんぬり絵展覧会 (100 人) 縄文土器をつくろう! (34 人)、笹山夕日交流会 2015 (24 人) ささやまラボ・土器の拓本作り・接合体験・土器チョコ作り (20 人)
平成 28 年	笹山土器作り体験会 (28 人)、縄文土器をつくろう! (32 人) 笹山夕日交流会 2016 (25 人)、笹山遺跡ボランティア第 5 期 (年間: 172 人) ささやまラボ・土器の拓本作り・接合体験・土器チョコ作り (30 人)
平成 29 年	古代糸作り (10 人)、縄文土器をつくろう! (20 人)、大人の土器作り (24 人) ドッキー作り (5 人)、チンコロ作り (9 人)、火焰型土器チョコ作り (8 人) 笹山遺跡ボランティア第 6 期 (年間: 81 人)
平成 30 年	土器片クッキー作り (3 人)、第 19 回笹山じょうもん市クイズラリー (80 人) 古代糸作り (3 人)、いきなり! 縄文キャンプ (9 人)、縄文土器をつくろう! (30 人) 青春 18 土器作り (23 人)、縄文的チンコロ作り (10 人) 火焰型土器チョコ作り (21 人)
令和元年	ベンガラ染めTシャツ作り (12 人)、第 20 回笹山じょうもん市クイズラリー (120 人) ちっちゃい土器作り (10 人)、縄文土器をつくろう! (16 人) 青春 18 土器作り (24 人)、Oh! むかしマルシェ (470 人) 縄文チンコロ作り (12 人)、火焰型土器チョコ作り (22 人)
令和 2 年	ベンガラ染めTシャツ作り (14 人)、縄文土器をつくろう! (22 人) 青春 18 土器作り (16 人)、Oh! むかしマルシェ (1,260 人) 火焰型土器チョコ (13 人)
令和 3 年	ベンガラ染めTシャツ作り (16 人)、縄文土器をつくろう! (8 人) Oh! むかしマルシェ (1,285 人)、旬のジビエ 鴨を体験しよう! (24 人) シカの角アクセサリーを作ろう! (10 人)、火焰型土器チョコ&拓本帳作り (14 人)

() は参加人数

(3) 縄文体験観光プログラム事業「十日町縄文ツアーズ」

十日町縄文ツアーズは、笹山遺跡での衣食住体験と博物館での学芸員等による展示解説を組み合わせた観光プログラムです。平成 31 年度に採択された文化庁の「生きた歴史体感プログラム (Living History) 促進事業」補助金を活用して、調度品や運営マニュアルを作成しました。笹

山遺跡では、縄文服の着用、木の実類の採集、弓矢の投射、復元竪穴住居内での土器鍋体験、縄文レストランを行っています。ライトツアー（遺跡・博物館見学、土器鍋）とミドルツアー（遺跡・博物館見学、縄文レストラン）があり、運営は十日町市観光協会です。

年度	取組内容
令和元年	縄文体験用衣装や体験プログラムの作成など
令和2年	リハーサルツアー（12人）、モニターツアー（13人）
令和3年	モニターツアー（2回・計25人）、メディア撮影（31人）
令和4年	モニターツアー（13人）、オンラインツアー（2回・45人） ライトツアー（4回・39人）、メディア撮影（15人）、インフルエンサー（2人）
令和5年	モニターツアー（2回・41人）、ライトツアー（5回・67人）、メディア撮影（18人） インフルエンサー（8人）

（ ）は参加人数



土器鍋体験



弓矢体験



縄文レストラン

（4）十日町雪まつり「中条笹山縄文ひろば」

毎年2月に開催される十日町雪まつりにおいて、笹山遺跡では中条地区振興会により「中条笹山縄文ひろば」が開設されています。これに合わせて、笹山縄文館内の出土品整理室が公開されます。



中条笹山縄文ひろば

第3章 史跡概要の整理

1 史跡の価値と課題

(1) 史跡の持つ価値

国宝出土地の笹山遺跡が持つ価値を、以下に示す歴史的価値、教育的価値、地域的価値、文化観光的価値の4つに整理します。

① 歴史的価値

笹山遺跡では、縄文時代中・後期（約5,400～3,200年前）と中世（鎌倉・南北朝・室町・戦国時代）の集落跡が発見され、一部が市指定史跡として保存されています。

1-1 縄文時代中期の地域社会を伝える

遺跡から出土した火焰型土器を含む深鉢形土器群が、縄文土器として初めての国宝に指定されています。火焰型土器は、縄文時代中期（約5,400～4,400年前）の中頃に信濃川流域で作られ、日本における芸術の始原と言われます。火焰型土器以外にも、北陸、東北、関東地方などから影響を受けた土器が出土しており、これらは当時の人々の広域交流を表しています。また、出土した石器や土製品は、縄文人の道具一式が揃っています。笹山遺跡は、信濃川流域で屈指の環状集落であり、縄文時代の生活・文化を現在に伝える重要な場所です。

1-2 中世の生活と文化を伝える

中世の集落は、越後新田氏一族の中心的な勢力である大井田・中条氏等が活躍していた時代のもので考えられています。遺跡背後にある大井田城跡を始めとする数々の山城と併せて、武士が活躍していた時代の地域社会の様相を現在に伝える重要な遺跡です。

1-3 信濃川の河岸段丘上に形成された重層的な歴史と人々の営みを伝える

遺跡は、丘陵端部と河岸段丘面が接する緩斜面（沖積扇状地）上に立地しています。信濃川によって形成された河岸段丘上には、縄文時代中期を中心に草創期（約16,000～11,300年前）から晩期（約3,200～2,400年前）までの遺跡が数多く存在し、その上で営まれた縄文人の重層的な歴史を理解することができます。また、信濃川と清津川の合流点付近は、国内有数の草創期遺跡の集中地域であり、中でも田沢・壬遺跡は国史跡に指定されています。

② 教育的価値 歴史や文化についての学びを創出する資源

- ・学校教育や生涯学習において、あらゆる年代の人々に対し、縄文時代の生活・文化に関する学びを提供することが可能です。
- ・自然環境や里山の形成、景観の保全に関する学びを得ることができる場所です。

③ 地域的価値 地域コミュニティの活性化に資する資源

- ・遺跡は、住民自ら地域の歴史を世界へ発信することができる場所です。また、地域づくりの中心となり、シビックプライドやコミュニティ活性化の拠り所となります。
- ・遺跡の価値を生かした地域活動やイベント等を通して、地域の歴史文化に対する住民と来訪者の理解を深めることが可能です。また、コミュニティのつながりを深めるとともに、地域

外からの来訪者との交流を通して、地域をさらに活性化させることが期待されます。

④ 文化観光的価値 文化観光の推進に資する資源

- ・ 笹山遺跡および出土品は、日本遺産「「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」（平成28年認定）と、「究極の雪国とおかまち—真説！豪雪地ものがたり—」（令和2年認定）の構成文化財であり、文化観光推進の核となる歴史文化遺産としての価値を有しています。
- ・ 大地の芸術祭では、遺跡に近接する高麗神社と十二社に作品が設置されることもあり、現代アートと連携した活用が期待されます。
- ・ 近年は、縄文の楽しみ方が多様化しています。20～40歳代をターゲットにしたフリーペーパーの発行や土偶女子の登場など、遺跡や出土品の魅力が様々な角度からアレンジ、深掘りされています。また、令和3年に北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に認定されています。
- ・ 各種の情報発信を利用したアプローチによって、日本人だけでなく訪日・在日外国人を含む多様な世代の遺跡に対する興味や関心を喚起することが期待されます。

(2) 史跡整備にあたっての課題

歴史的価値を生かすための課題

① 学術調査の継続

学術研究上必要な発掘調査を継続して行い、遺跡の性格を明らかにします。

② 遺跡および出土品の保存

調査により発見された遺構や出土品を適切に保存し、継承していきます。また、史跡指定地内の公有地化を進める必要があります。

③ 歴史を感じられる景観づくり

遺跡周辺の現代的要素（野球場・競技場、道路など）を植栽によって遮り、縄文時代のランドスケープを考慮した景観づくりが必要です。

教育的価値を生かすための課題

④ 縄文体験・学びの充実

学校教育や生涯学習との連携を進め、学びのプログラムを充実させる必要があります。

⑤ 施設等の老朽化

体験の場として、笹山縄文館（旧市民スポーツハウス）は十分な機能を有しておらず、施設の老朽化が進んでいます。遺跡の魅力を発信するとともに、体験の拠点となる新たな施設の整備が必要です。

⑥ 十日町市博物館との連携の促進

来訪者の縄文文化に対する理解をより一層深めるため、国宝・笹山遺跡出土品が展示されている博物館とのさらなる連携が必要です。

地域的価値を生かすための課題

⑦ 住民活動の拠点となる場の創出

日常的に地域住民が集まり、活動する場が不足しています。住民による活動を支援し、地域の賑わいを創出する拠点づくりが必要です。

⑧ 地域活動の持続的な実施と交流を通じた地域の活性化

イベントに加えて、地域の歴史文化遺産の情報発信や、ボランティアガイド等による地域住民のおもてなしを充実させるとともに、市内外との交流促進による地域経済の活性化を行う必要があります。

⑨ 周辺施設と里山環境が一体となった広場整備

隣接する十日町市陸上競技場と笹山野球場などの運動施設や、周囲の里山・森と一体的に活用することで、地域住民の活動範囲を拡大し、その内容を充実させる必要があります。

文化観光的価値を生かすための課題

⑩ 各種インフラの整備（トイレ等の便益施設、来訪者への情報発信）

多様なニーズに対応可能な便益施設の整備や、ガイダンス機能および来訪者への情報提供の充実が必要です。

⑪ 周辺を含む地域文化体験の創出

来訪者に対して、縄文文化を中心とした地域ならではの魅力的な体験プログラムを開発する必要があります。

⑫ 大地の芸術祭との連携

大地の芸術祭と積極的に連携し、文化観光の拠点としてさらなる魅力を創り出すことが必要です。

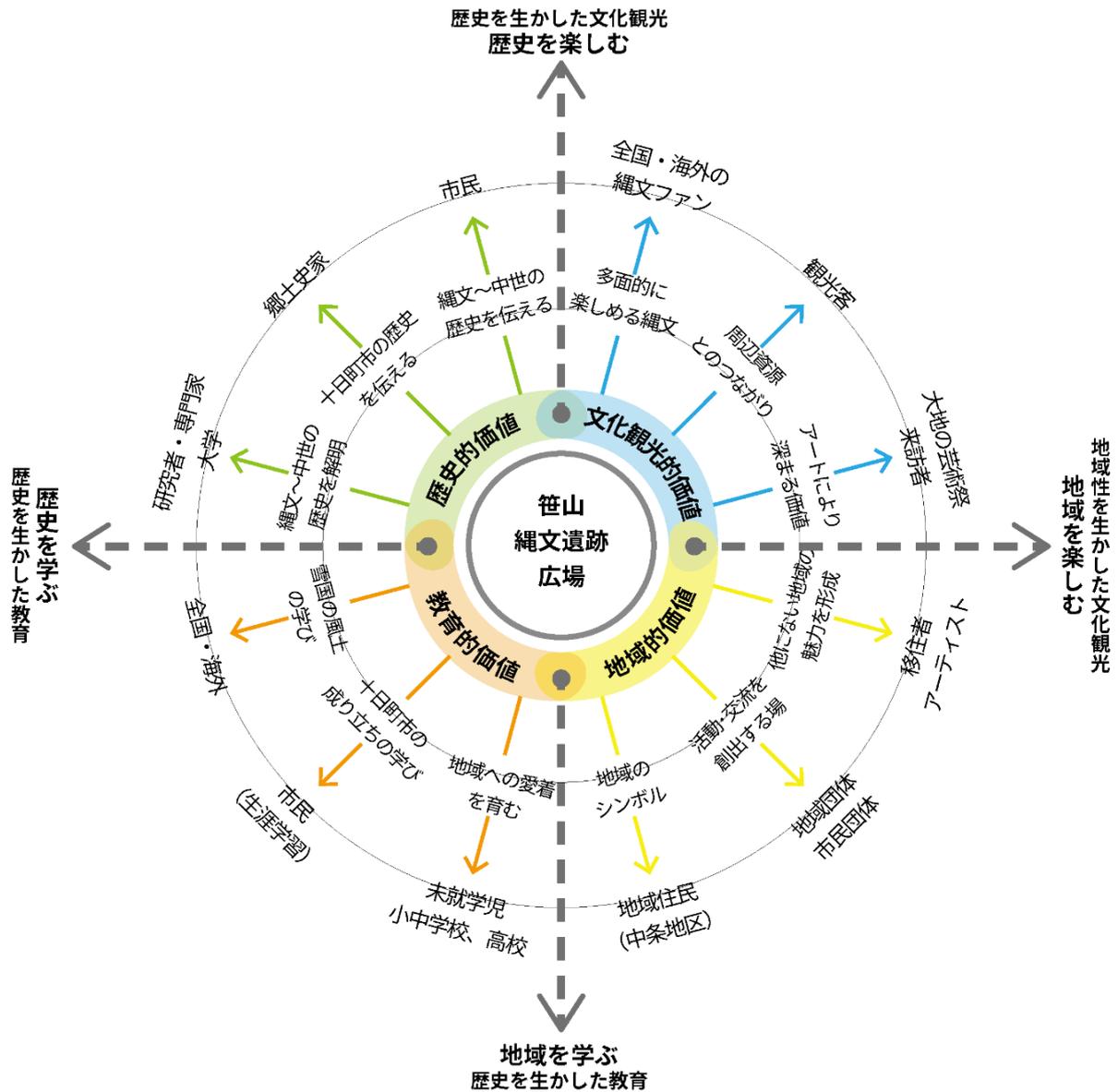
⑬ 周辺の歴史文化遺産や自然環境との連携・アクセス性の向上

周辺の歴史文化遺産や自然環境の魅力を遺跡と関連付けて情報発信することで、来訪者の増加を図るとともに、相互のアクセス性を向上させる必要があります。

2 施設整備の方向性

(1) 多様な価値の提供

遺跡広場で実施する体験プログラムを通して、前項で整理した4つの価値を多様な対象に対して提供します。



笹山遺跡が持つ価値の提供イメージ

(2) 整備の方向性

国宝・火焰型土器に代表される笹山遺跡の縄文文化とともに、周辺にある中世の山城などの歴史文化遺産や里山を一体のものとして活用し、遺跡ならではの魅力を世界に情報発信します。

整備の方向性を以下に整理します。

歴史的価値を生かすための方向性

河岸段丘が造り出したダイナミックな地形や豪雪地の気候など、縄文時代から続く笹山遺跡の風土と歴史を伝える空間づくりを行います。全国に数多くある縄文時代遺跡の中でも、笹山遺跡特有の価値を生かした体験プログラムを造成し、縄文文化に対して強い興味・関心を持つターゲット層を惹きつけます。

教育的価値を生かすための方向性

十日町市博物館と連携した縄文学習・体験を行います。多様な世代に対して学びを提供し、特に親子で楽しみながら学び、過ごすことができる場を創出します。

地域的価値を生かすための方向性

地域との連携を深めるとともに、周辺の歴史文化遺産を含めた地域の文化や里山の景観を情報発信します。施設の整備や運営に、地域の多様な関係者が参加しながら、施設の魅力を創り出していきます。

文化観光的価値を生かすための方向性

大地の芸術祭および市内の文化観光拠点施設等と連携し、来訪者が火焰型土器に代表される縄文の原始芸術から現代アートを感じることができる場を創出します。また、現在の日本文化に受け継がれてきた、自然と共生する縄文時代の暮らしを発信し、国内外から多くの来訪者を受け入れることができる整備を行います。

第4章 基本理念・基本方針

1 基本理念

(1) ターゲット

広場整備や体験プログラム造成の方向性を明確にし、また、効果的な遺跡の魅力発信や集客を実現するため、以下のターゲットを設定します。

第1：30～40歳代の子育て世代

第2：日本文化に興味がある訪日・在日外国人

第3：縄文に対して強く関心をもっている人

(2) 整備テーマ

「JOMONを体感！ 縄文の知恵と風景に出会う笹山遺跡」

縄文の知恵 縄文時代は約1万6千年前に始まり、1万年以上続きました。縄文人は自然と共生しながら、広域の天然資源を有効活用し、定住的な集落で生活していたと考えられています。集落は、季節によって変化する太陽の動きなど周囲の景観も取り入れて、環状にデザインされていました。また、芸術家・岡本太郎が美を発見した縄文土器もこの生活の中で作り出されました。そして、縄文人が「衣」「食」「住」のために生み出した様々な技術は現代まで受け継がれ、持続可能な生活を目指す現代人が、その知恵に触れることはこれから生き抜くヒントを得る機会となります。

笹山遺跡の魅力 笹山遺跡は、縄文時代中期（約5,400～4,400年前）の素晴らしい造形美を誇る国宝「火焰型土器」が出土した十日町市指定史跡です。土石流などの災害に見舞われながらも縄文時代中期以降、中世（鎌倉～戦国時代）に至るまで集落が営まれ、古くから人々を惹きつける魅力ある場所であったことがわかります。遺跡周辺には、新潟県指定史跡大井田城跡や高麗神社等の歴史文化遺産が数多くあります。また、現代アートである「大地の芸術祭」作品が設置されて、多くの人々を引き寄せる魅力を持ち、縄文時代から現代まで人々の営みが連続と続けられてきた歴史ある地域です。

十日町市は国内有数の豪雪地帯であり、雪国特有の文化が育まれてきました。これらの中には、その起源が縄文時代にまでさかのぼると考えられるものもあります。笹山遺跡は、火焰型土器に始まる芸術の始原から現代アートと、雪国文化を体感することができる魅力ある場所と言えます。

広場整備の目的 笹山遺跡は国民共有の財産であるとともに、かけがえのない地域の財（たから）です。遺跡広場の整備では、遺跡を後世に末永く継承するため、地中の埋蔵文化財を保護した上で、来訪者に遺跡の価値を伝え、縄文を体感し、縄文の知恵と風景に出会う場として誰もが利用できる空間を創出します。また、国宝「火焰型土器」を展示する十日町市博物館と遺跡広場を一体のものとして整備することで、地域経済の活性化を図ります。

2 基本方針

基本理念を実現するために、以下の基本方針を掲げます。

方針 1 遺跡の保存と次世代への継承

国民共有の財産として笹山遺跡の価値を減ずることなく、次世代に継承できるよう、地中の埋蔵文化財の保存を図ります。また、学術研究上必要な調査を行うとともに、遺跡の魅力を探求し、その成果を踏まえた整備と活用を行います。

方針 2 遺跡を取り巻く自然環境と景観の保全

遺跡の周囲には、縄文時代の人々が関わっていたと考えられる自然が広がっています。四季折々の自然環境と縄文集落のたたずまいを今に伝える景観を守り、育てます。また、来訪者が縄文の風景を感じることができるよう、眺望に現代的な要素が入らないよう考慮します。そして、縄文時代の植生環境に基づいた景観の維持に努めます。

方針 3 遺跡の価値と周辺にある歴史文化遺産の公開

これまでに行われた発掘調査の成果に基づき、来訪者が遺跡を身近に感じ、その価値をわかりやすく理解できるような史跡整備を行います。また、遺跡周辺にある縄文時代遺跡や中世の城館跡、寺社、現代アート作品等の歴史文化遺産を有機的に繋ぐ仕組みを作り、来訪者に地域の豊かな歴史を伝えます。

方針 4 縄文を体感できる居心地の良い場の創出

来訪者が、縄文人も見ていた夕陽、雄大な河岸段丘の風景を眺め、縄文人の知恵の結晶である「衣」「食」「住」の技や、火焰型土器を始原とするアートを楽しみながら体感できる場を創出します。また、来訪者が安全で快適に過ごすことができ、憩いの場となるような史跡整備を行います。

方針 5 市民や事業者との協働による文化観光の推進

整備エリアを市民や事業者が主体となって活動する場と位置づけ、両者と行政が協働して遺跡を文化観光資源として有効活用します。また、縄文体験プログラムの実施にあたっては、国内外へ効果的な情報発信を行います。

方針 6 博物館を含む市内文化観光拠点施設等との連携

市内にある5か所の文化観光拠点施設（十日町市博物館・越後妻有里山現代美術館 MonET・まつだいで雪国農耕文化村センター「農舞台」・越後松之山「森の学校」キョロロ・清津峡溪谷歩道

トンネル)、ナカゴグリーンパークや光の館と連携して、来訪者の周遊性を高めることで、交流人口の増加を図ります。

方針 7 日本遺産及び大地の芸術祭との連動

十日町市の歴史文化を物語る2つの日本遺産「「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化」「究極の雪国とおかまち—真説！豪雪地ものがたり—」のストーリーと、大地の芸術祭のコンセプト「人間は自然に内包される」に連動した整備と活用を行います。

方針 8 持続可能な管理と運営

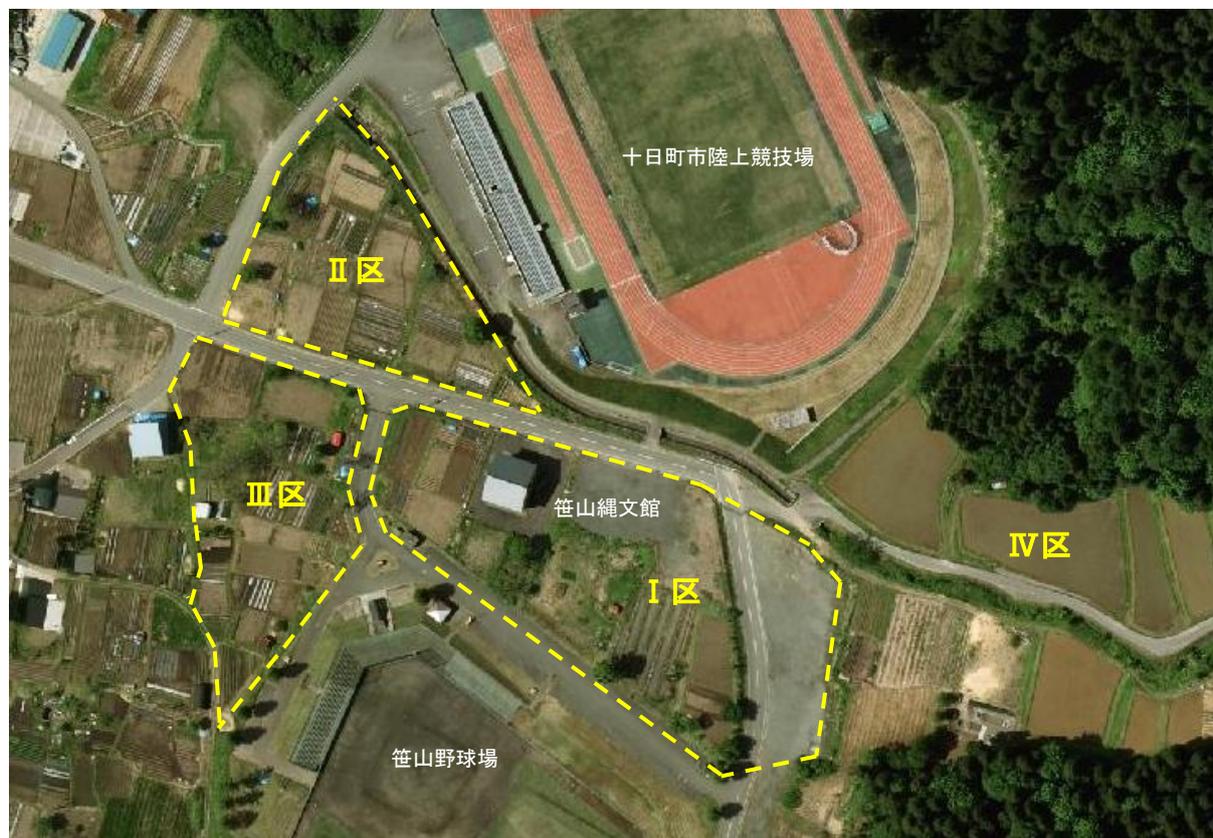
整備事業は公有地化が進んだ区域を優先して行います。全体計画は、短期に実現する計画と中・長期的な取り組みとする計画とし、段階的な整備を実施します。また、整備エリアの管理と運営にあたっては、持続可能な方法を検討します。

第5章 広場計画

1 ゾーニング

(1) ゾーニング

史跡指定地を含めて、周辺を一体的に整備します。以下の通り、I～IV区のゾーニングを行い、公有地化が進んでいるI区を優先して順次整備して行きます。



I～IV区のゾーニング

(2) 各エリアの考え方

各エリアの整備の考え方を以下に整理します。

- I区** 笹山縄文広場の中心となるエリアであり、イベントや縄文体験ができる広場空間、復元竪穴住居、ガイダンス施設等を整備します。
- II区** 広場の入口として来訪者用の駐車場を整備します。また、バッファゾーン（緩衝地帯）として市街地への視線を遮ることを検討します。
- III区** 学術発掘調査で発見された遺構の露出展示を行うとともに、バッファゾーンとして市街地への視線を遮り、また、将来的な来訪者の増加を見込んだ駐車場の整備を検討します。
- IV区** 棚田や河川、里山などの自然環境、中世の山城等の歴史文化遺産を生かして、多様な体験プログラムを行う場を整備するとともに、環境の維持を検討します。

2 広場計画の方針

① 縄文人も見ていた夕陽を眺め、楽しむことができる

- ・縄文時代から続く夕陽の眺めを楽しむことができる空間を演出します。
- ・信濃川につながる河岸段丘の地形を感じることができる空間を造ります。
- ・夕方から夜の時間に楽しむことができるプログラム（飲食等を含む）を造成します。
- ・夕陽+αの付加価値を生み出します。

② 縄文の世界観を創出する

- ・発掘調査の成果に基づき、縄文時代の集落を感じることができる景観を造ります（復元竪穴住居の配置を含む広場全体のデザイン）。
- ・高木植栽等により周辺の近代的施設（十日町市陸上競技場、笹山野球場、道路、住宅等）への視線を遮り、来訪者が縄文時代に没入することができる空間を造ります。
- ・施設の建設では、地域住民が参加するなど自然や地域との共生を検討します。また、周囲の景観と調和した外観の施設を目指します。

③ 博物館にはない、遺跡ならではの縄文体験ができる空間づくり

- ・十日町縄文ツアー等これまでの体験プログラムを継続、発展させるとともに、縄文人の知恵や火焰型土器を始原とするアートを体感することができるプログラムを造成します。
- ・来訪者が出土品に触れ、その整理や調査、研究に対する理解を深めることができるようにします。
- ・地中の遺構を露出展示するなど、来訪者が発掘調査を体感できる場所を検討します。
- ・来訪者がいつ来ても、笹山遺跡の価値を知り、理解することができる場所とします。
- ・来訪者が冬季間も訪れ、縄文時代から続く雪国の風景や生活文化を感じることができる場所とします。

④ 地域の人たちが集まり、縄文をテーマにしたにぎわいを創出する空間づくり

- ・地域住民等が集まり、イベントを通じた人的交流ができる場所とします。
- ・屋外でのイベントをサポートする設備（水道や電源など）を検討します。
- ・日陰や屋根付き施設等、夏の炎天下や雨天時にも屋外での体験プログラムが実施可能な環境を整備します。

⑤ ランドマークとなる施設デザイン

- ・ランドマーク性を備えた広場とし、また、広場のシンボルとなる施設デザインとします。
- ・国内外に広く情報発信し、訪日外国人を含むより多くの来訪者を呼び込むことができるよう、大地の芸術祭のコンセプトと連動した施設デザインを検討します。

3 整備計画（I区）

（1）配置計画

現在の笹山縄文館は、旧市民スポーツハウスを改装した施設であり、老朽化が進んでいます。ガイダンス施設として使い勝手が悪く、縄文の風景に馴染まない現代的な外観のため、建て替えを検討します。新しいガイダンス施設は、笹山遺跡の価値を生かすとともに、縄文集落の風景を演出することができ、また、広場としての幅広い利用を可能とするため、広場の東側に建設を予定しています。新しい施設は笹山遺跡のシンボルとなり、また、遺跡の価値と縄文文化を発信し、地域住民等の活動拠点となります。また、ガイダンス施設とは別に、広場内に体験プログラムを支援する設備を設けます。

ガイダンス施設の広場東側への配置

<p>配置計画</p>	
<p>建築計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○車でアプローチした際に広場より奥にあり、来訪者に圧迫感を与えない ○住宅地から一定の距離をとっているため、利用上の制約が少ない ○発掘調査済みの場所であり、建築が容易
<p>動線計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> △駐車場からガイダンス施設までが、150mほどのアプローチ距離となる（駐車場の一部を隣接させることで利便性を改善することも検討） △施設と広場の間に市道が通っており、来訪者の安全対策を行う必要がある ○西側駐車場からは150m歩くことになるが、広場内を通ることで、遠い距離感という印象を与えず、アプローチの演出も可能、また、施設のランドマーク性が高くなる ○ガイダンス施設近くに駐車場を配置することも可能
<p>広場計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○I区の中央に広場空間を広く配置することが可能 ○発掘調査の成果に基づき、縄文時代の集落構成（中央の広場を囲むように住居などが配置される環状集落）を再現することが可能 ○大小各種の広場を配置することができ、利用に合わせて使い分けも可能
<p>造成計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> △現況を大きく変えるため、大規模な造成が必要（地中の遺構に影響のない範囲）
<p>総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○広場として広く利用することができ、縄文集落の風景を演出しやすい

○良い点 △検討を要する点

(2) 広場計画

○ 夕陽を体感できるランドスケープデザイン

広場計画の方針に示したように、縄文人も見ていた夕陽体験をメインのプログラムとします。そのため、夏至、冬至、春分、秋分の夕陽の方角を広場デザインに取り入れます。

○ 利活用を考慮した広場計画

広場は、十日町縄文ツアーズなど各種の縄文体験プログラムや、地域住民の利用を考慮して、極力広い面積を確保できる造成を計画します。中央を円形の広場とすることで、縄文人が見たであろう集落の風景を再現するデザインとします。また、現笹山縄文館がある場所は発掘調査が終了しており、工事が容易であるため、電気や水道等の設備を備えた場所とします。

○ 縄文時代遺構の表現

広場内には既存の復元竪穴住居があります。今後は、これらの住居を広場のデザインに取り入れ、環状集落を復元するため、円形に配置します。また、学術発掘調査で新たに発見され、祭祀の場と推定される配石遺構も、広場のデザインに取り入れます。

○ 回遊性の確保

西側駐車場とガイダンス施設、広場ゾーンなどの回遊性を高める計画とします。広場内の誘導路は、前述した夕陽などの方角も配慮しながら配置し、各施設間の移動が容易な計画とします。

○ 遺構と自然環境の保全

広場内には、発掘調査が行われていない区域があります。広場の設計にあたっては、十分な盛土を行い、地面の掘削を伴わない簡易舗装を採用するなど、地中にある遺構の保全に配慮します。また、広場内の植栽にあたっては、周辺の森林から植栽木を採取するなど、地域の生物多様性に配慮します。

(3) ガイダンス施設計画

○ 夕陽を取り込む

広場で開催される体験プログラム越しに、河岸段丘と信濃川を見渡し、さらには東頸城丘陵に沈みゆく夕陽を眺めることができる建物とします。また、冬至や夏至の夕陽、季節の移り変わりが意識できる外観のデザインを検討します。

○ ピロティの設置

広場と一体的に利用できるピロティを設置します。雨天時等に、各種の体験プログラムが開催可能な場所とします。

○ 積雪対策

積雪に関しては、関係法令（新潟県建築基準法施行規則多雪区域の指定など）を遵守するとともに、克雪・利雪・親雪を考慮した施設設計とします。

○ バリアフリー

エレベーターやユニバーサルトイレなどを設置し、すべての来訪者に対して安心・安全かつ快適な空間となるよう、ユニバーサルデザインに配慮します。

○維持管理および環境への配慮と共生

周囲の自然と共生して暮らしていた縄文人の精神を受け継ぎます。省エネルギーに効果のある設備の採用を検討し、自然環境への負荷を抑えます。計画的で適切な維持管理により、施設の長寿命化や修繕費を含むライフサイクルコストの軽減を目指します。

○外観のイメージ

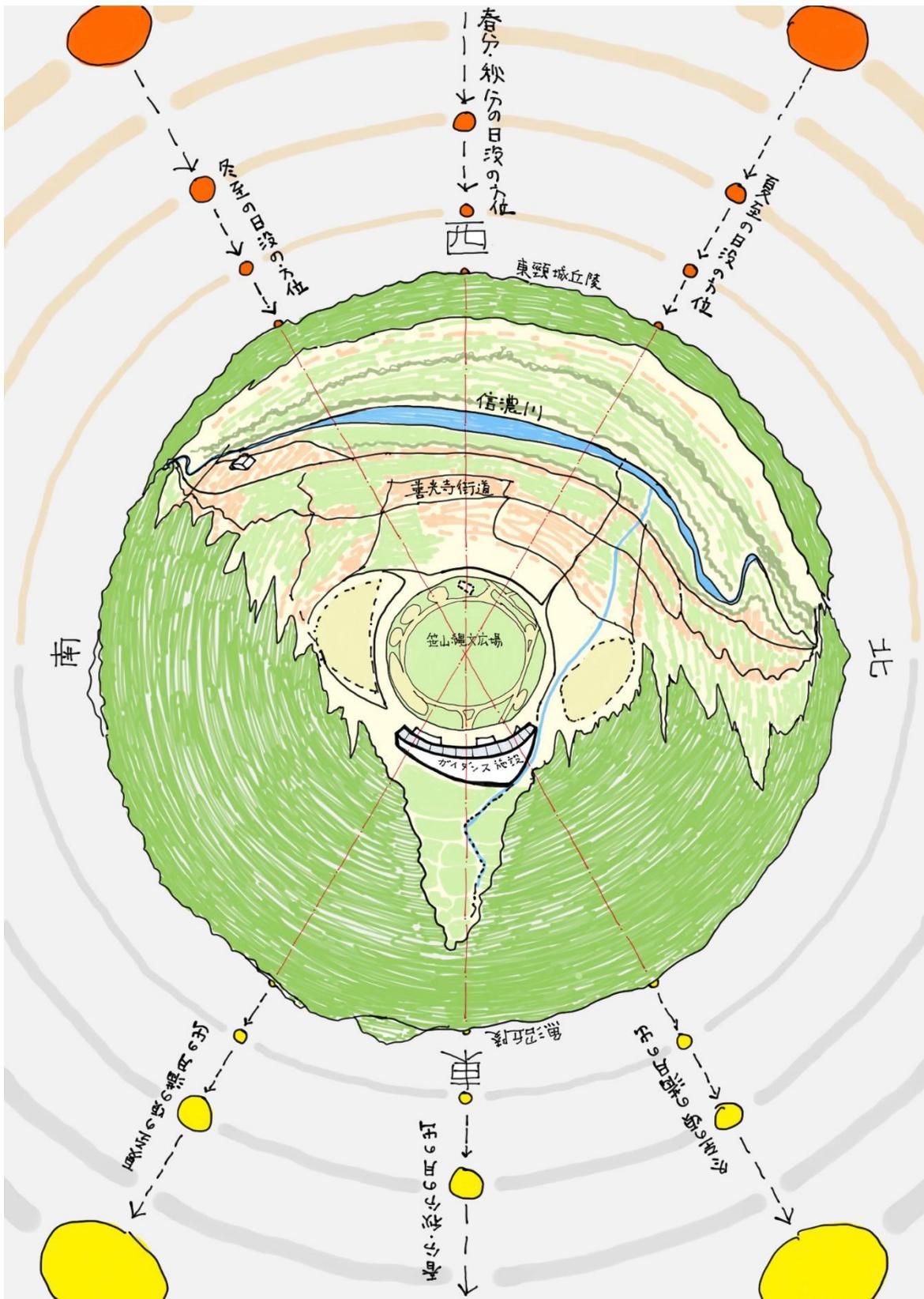
周辺の景観と調和した施設の外観デザインとします。デザインにあたっては、住民の参加も検討します。また、施設からの眺望を確保するため、施設全体のデザインとの調和を考慮しつつ、ガラスなどを用いた象徴的な開口部の設置を検討します。

(4) ガイダンス施設の想定される規模・機能

建物等について現況の施設等を考慮し、以下のとおり設定します。

室名	面積 (㎡)	機能
体験	200	<ul style="list-style-type: none"> ・土器作り等、室内での体験プログラムを行う。 ・定員は20～50名程度を想定する。 ・体験プログラムの他、講演会や会議などにも活用できる場所とする。 ・体験等の利用時以外は施錠する。 ・キッチン等を設置し、食の体験にも利用できるようにする。
ガイダンス	250 (資料室 50)	<ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルや映像、また、実物資料（国宝・市指定文化財除く）やレプリカなどを利用して、笹山遺跡の調査成果の他に発掘調査や出土品の整理作業についてわかりやすく紹介する。 ・来訪者が、国宝指定土器の出土状況を体感することができる展示を検討する。 ・出土品（国宝・市指定文化財除く）の収蔵展示を検討する。
倉庫	150	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス施設（屋内）および広場（屋外）での体験活動や、イベント等で利用する用具類を収納する。
事務	50	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の職員やボランティア等が利用する。 ・体験プログラム開催時には、主催者の準備・待機スペース等として利用する。
トイレ		<ul style="list-style-type: none"> ・広場利用者用（屋外から直接利用可能）および施設利用者用（屋内）のトイレを設置する。 ・バリアフリートイレを設置する。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・夕陽や広場を眺めることのできるテラスを設ける。 ・1階にはピロティを設置し、雨天時なども屋外の広場と一体的に利用できる空間とする。 ・ピロティには、水洗い場などを設置する。 ・広場には、土器づくり体験用の野焼きスペースを設置する。また、電源や水洗い場等を設置し、イベント時に利用できるようにする。
合計	650	

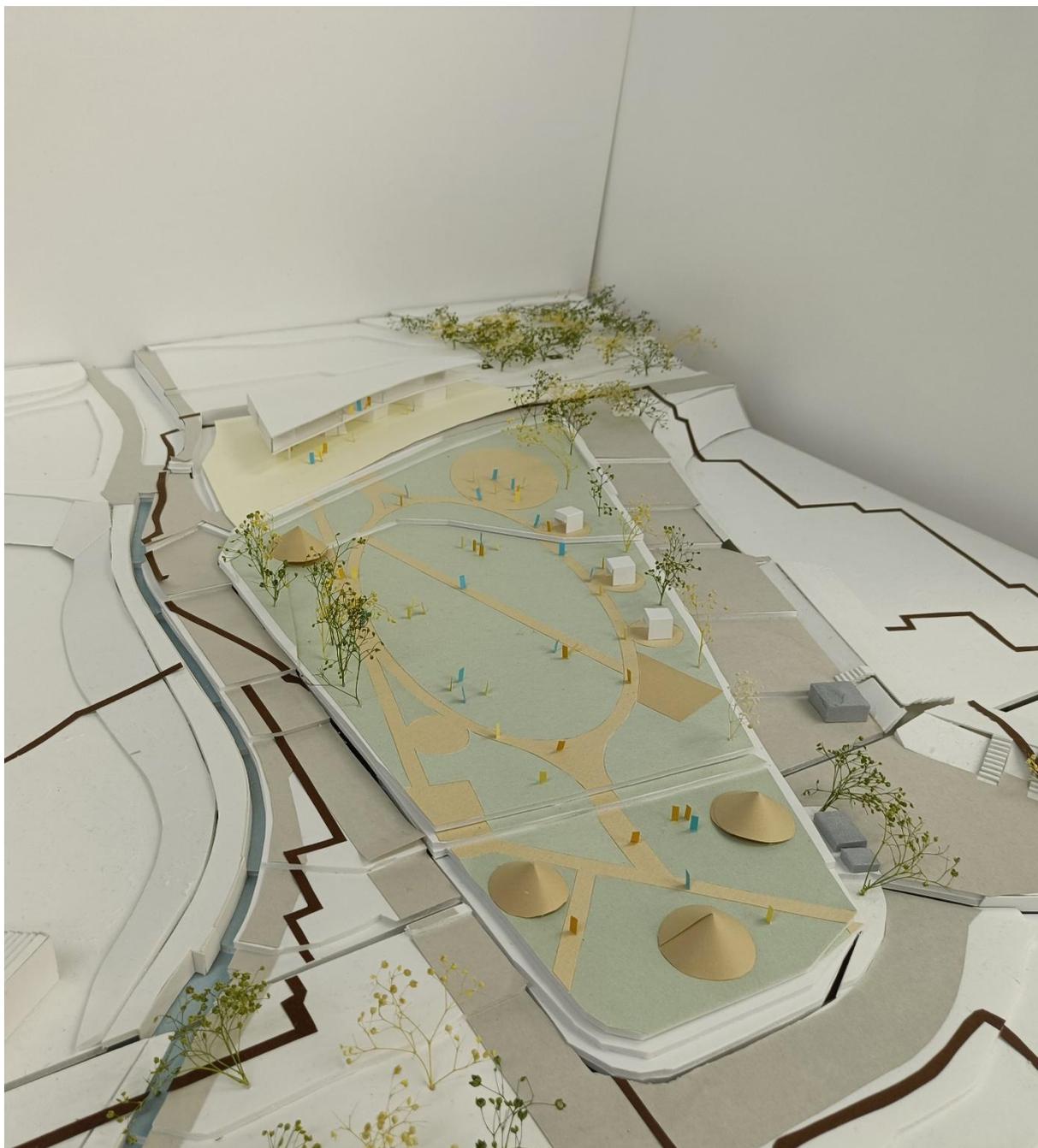
来訪者は、縄文時代から変わらない夕陽や月の出を見ながら、縄文人の暮らしを追体験することで、縄文の世界感に没入することができます。



縄文広場を中心に太陽や月の動きを通して季節や時間の移り変わりを感じるイメージ

4 整備イメージ（I区）

（1）広場全体



模型写真

(2) 広場鳥瞰



昼間のイメージ



夕景のイメージ

(3) ガイダンス施設



外観イメージ (想定)



ガイダンス施設と広場から見た夕陽イメージ (想像)

5 全体計画

I～IV区の全体計画は以下の通りとします。

I区 体験広場・ガイダンス施設

- ・縄文時代の環状集落を復元し、集落の風景を感じることができる広場を整備します。
- ・広場の周囲には復元竪穴住居を設置し、中央にはイベント等が実施可能なスペースを確保します。
- ・来訪者に、国宝指定の土器が出土した状況と感動を伝えます。
- ・ガイダンス施設は、遺跡価値の発信や体験プログラムの開催など活動の拠点とします。
- ・河岸段丘の地形を生かして、信濃川への眺望と縄文の世界感を作り出します。
- ・夕陽を楽しむことができる空間づくりを行います。
- ・ガイダンス施設の建設予定地は、広場に隣接する十日町市陸上競技場と笹山野球場の利用者駐車場となっており、これに替わる駐車スペースの確保を検討します。

II区 縄文の森・駐車場

- ・広場の入口として、来訪者用駐車場を整備します。
- ・駐車場は大型バスも駐車可能な仕様とします。
- ・住宅地とのバッファゾーンとして縄文の森を整備し、現代的建物等への視線を遮り、縄文の世界観を演出します。
- ・植栽にあたっては、縄文時代の植生とともに地域の生物多様性を考慮し、縄文人が見た風景を体感できる森とします。

III区 縄文の森・遺構展示

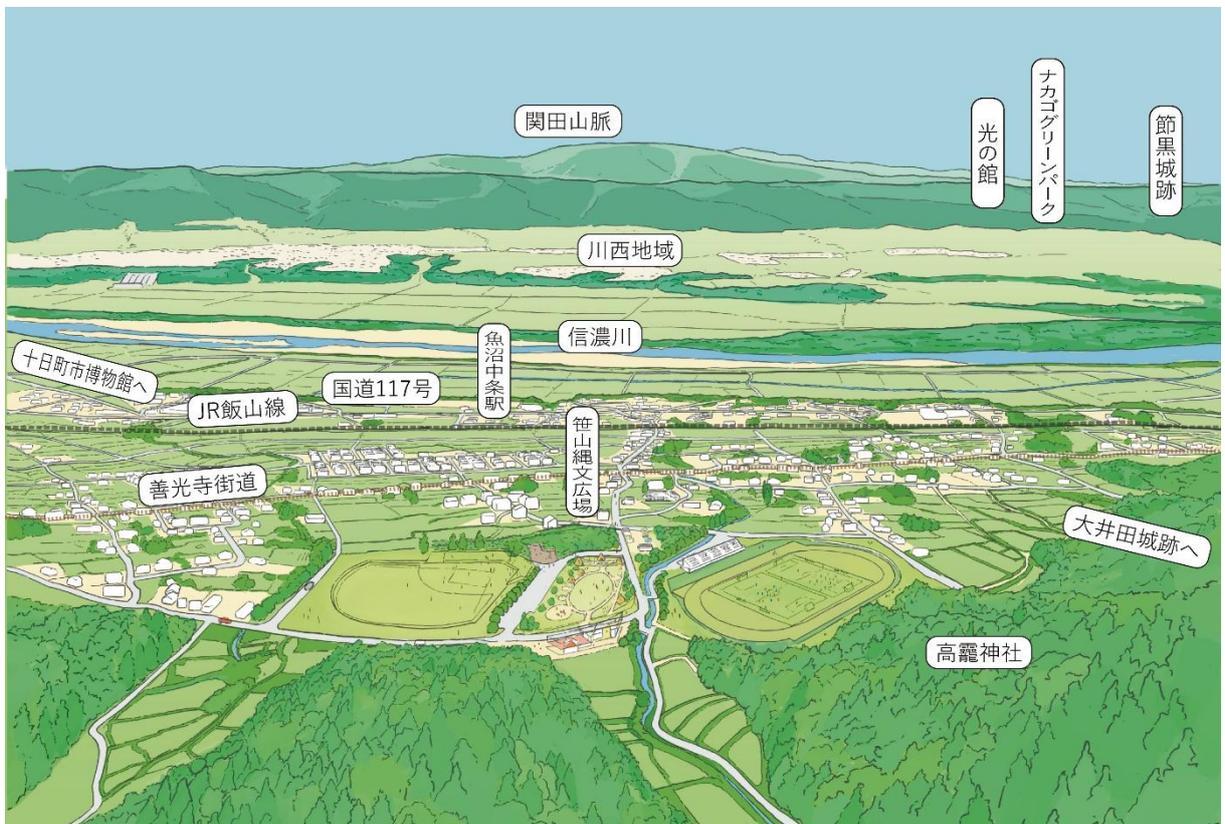
- ・遺構の露出展示を検討します。
- ・住宅地とのバッファゾーンとして縄文の森を整備し、現代的建物等への視線を遮り、縄文の世界観を演出します。
- ・将来的な来訪者の増加を見込んだ駐車場の整備を検討します。
- ・植栽にあたっては、縄文時代の植生とともに地域の生物多様性に考慮し、縄文人が見た風景を体感できる森とします。

IV区 里山の森（散策路整備等）

- ・里山や水辺、棚田などを生かした散策路を設置して、現在までつながる自然環境をテーマにした体験プログラムができる森の整備を検討します。
- ・散策路は、広場と里山の森をつなぐ縄文の道として整備を検討します。
- ・森での木の実類の採集や狩猟体験、水田での古代米栽培、水辺での生物観察など自然環境を生かした体験や、遺跡背後の山頂での山城めぐりなど歴史文化遺産を生かした体験の場となるよう検討します。
- ・十日町市陸上競技場や笹山野球場との一体的な利用を検討します。



全体計画イメージ



縄文の世界観と河岸段丘のダイナミックな地形を感じることができる広場の鳥瞰イメージ

第6章 体験プログラム計画

1 基本的な考え方

「縄文人になりたい！」

広場では、縄文の世界観を創出します。来訪者は縄文の世界に没入して、縄文時代から続くこの地域の生活文化や自然を体験して楽しみ、また、縄文人も眺めたであろう信濃川の広大な河岸段丘を背景に、縄文集落の雰囲気を感じることが出来ます。

体験プログラムでは、体験広場、ガイダンス施設、周辺に広がる自然を活用しながら、市民と来訪者が一緒になって縄文の賑わいを創出します。また、雪国ならではのダイナミックな季節や景観の移り変わりを生かしたプログラムを提供します。これらのプログラムを実施することにより、学校教育や生涯学習の場としての広場利用を促進します。

特に、「縄文の夕陽と火」をテーマとして、夕暮れから夜間にかけて体験プログラムを展開していきます。夕陽を眺め、また、星空の下で火を囲みながら、縄文を体感できる時間と空間を来訪者に提供します。広場で夕暮れを過ごし、夜間はキャンプもしくは市街地に宿泊するなど、広場と周辺地域が一体となったプログラムを展開していきます。

また、季節の移り変わりや年月の積み重ねを感じ、楽しむことで、来訪者が何度も訪れたいくなるような体験プログラムの造成を目指します。

ターゲット設定と体験プログラム

基本理念に示した3つのターゲットに対して訴求する、笹山遺跡が持つ価値を以下のとおり設定し、それぞれのニーズに合わせた体験プログラムを造成します。また、プログラムの実施にあたっては、各ターゲットに向けた効果的な情報発信を行います。

① 30～40 歳代の子育て世代

→ 縄文集落の風景の中で、家族一緒に縄文人の知恵を楽しみながら学ぶ体験を提供します。学校教育や生涯学習につながるプログラムとします。

② 日本文化に興味がある訪日・在日外国人

→ 縄文人の知恵に触れることで、日本文化への理解を深めることができる体験を提供します。地域住民等との交流や周辺の文化観光拠点施設等との連携により、文化観光を促進するプログラムとします。

③ 縄文に対して強く関心をもっている人

→ 縄文人も見たであろう、雄大な河岸段丘地形や夕陽、自然を背景に縄文人の知恵を追体験することで、笹山遺跡の価値や現在まで積み重ねられてきた遺跡の歴史を知ることができるプログラムとします。

自然と四季

この地域では縄文時代以来、雪国ならではの豊かな自然と共生し、楽しみを見出しながら、暮らしが営まれてきました。縄文時代から続く自然との関わりを体験します。

- ・火起こしや、木の伐採など縄文時代の生活体験
- ・スノーシューなど雪上歩行体験
- ・雪国ならではの四季折々の自然を楽しむ、雪景色を鑑賞する
- ・四季で移り変わる星空の鑑賞
- ・縄文キャンプ など



火起こし体験



スノーシュー

食と文化

縄文人は、周囲にある森や川等から得られた天然資源を有効活用しており、その知恵と技術は現在まで引き継がれています。地域に継承されてきた食文化等を体験します。

- ・地域に伝わる四季折々の食（郷土食）を楽しむ
- ・ダイニングアウト（野外レストラン）
- ・土器づくりや、アンギン編み等の体験
- ・クリやクルミなど木の実類の採取体験 など



土器作り体験



野外レストラン

集落と地域

縄文人は集落を拠点として、周囲の自然と関わりながら暮らしていました。同様の集落は、信濃川流域に数多く存在します。また、遺跡周辺には山城や寺社などの歴史文化遺産があります。笹山遺跡を中心として周辺の自然や遺跡とのつながりを追体験します。

- ・集落を中心とした縄文人の暮らし体験
 - 信濃川等で魚獲り
 - 弓矢による疑似狩猟体験
 - 周辺の森を巡るハイキング
- ・周辺の遺跡や山城を巡るスタンプラリー など



疑似狩猟体験



散策・登山

他地域との交流

笹山遺跡の縄文人は、広範な地域の人々と交流しながら生活していたことが、発掘調査の成果からわかっています。縄文時代に関係のあった現在の地域との交流イベントを実施するなど、地域外へ開かれた縄文人の広域交流を体感します。また、イベントを通して、国内外から来訪者を集めます。

- ・ 市内外の地域との交流イベント
 笹山じょうもん市
 縄文マルシェ（Oh！むかしマルシェ）
- ・ 縄文時代に交流のあった地域から集めた物産市 など



笹山じょうもん市



物産市

2 十日町市博物館等との周遊

(1) 文化観光拠点施設等との連携

市内の文化観光拠点施設等と連携し、文化観光のネットワークを創り出します。特に、国宝・笹山遺跡出土品を展示・収蔵する十日町市博物館との連携を強化するとともに、縄文体験や観光プログラムの充実を図ります。

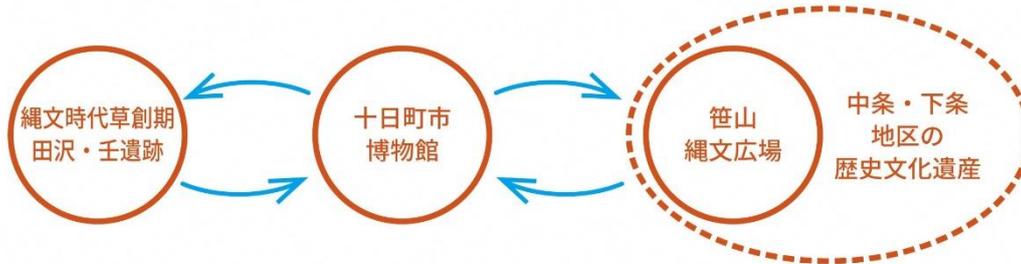
また、笹山遺跡を中条・下条地域に広がる歴史文化遺産の保存活用区域の拠点として位置付け、地域住民との協働により情報発信や体験プログラムを行うことで、来訪者と地域住民の交流や来訪者の周遊性を促進します。



笹山縄文広場と文化観光拠点施設等との連携イメージ

(2) 十日町市博物館との連携

十日町市博物館との連携により、来訪者がより深く笹山遺跡の価値を理解できるようにします。また、博物館と縄文広場の学校教育や生涯学習の場としての利用を促進します。さらに、国史跡の縄文時代草創期田沢・壬遺跡との連携により、十日町市の縄文文化の魅力をより一層発信します。このために、博物館と広場、田沢・壬遺跡をつなぐ交通手段の整備を検討します。



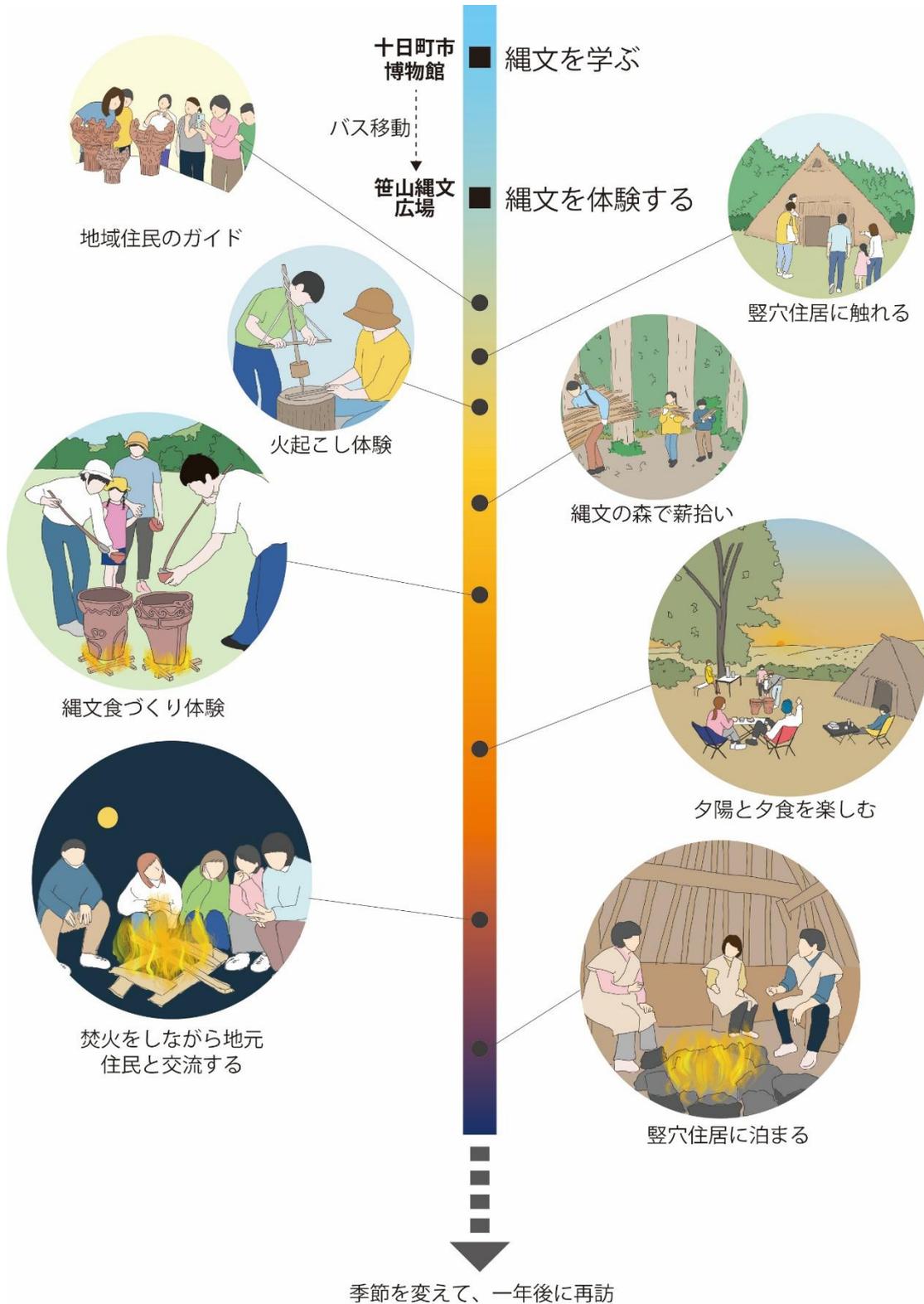
笹山縄文広場と十日町市博物館の連携イメージ

十日町市博物館と笹山縄文広場の比較

	十日町市博物館 - 学び -	笹山縄文広場 - 体験 -
笹山遺跡の歴史に関する展示等	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝「笹山遺跡出土品」(実物)を展示し、国宝を含む火焰型・王冠型土器について、詳細な解説を行う。 ・縄文時代について、広く理解することができる。 ・十日町市の通史的な歴史の中で、遺跡の価値を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・笹山遺跡の価値に特化した展示。 ・国宝が出土した瞬間を体感することができる。 ・発掘調査や出土品の整理作業など、遺跡の調査研究過程を理解することができる。 ・遺跡がある地域の歴史や文化を理解することができる。
体験など	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展や講座、ワークショップなどを行う。 ・館内において、15人程度を対象とした少人数の体験プログラムが可能。 ・市街地にあるため、土器焼きなど体験プログラムの内容に制限がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文集落の景観を生かした体験プログラムを行う。 ・20人以上の大人数を対象として、屋内と屋内の広い空間を利用したプログラムが可能。 ・周囲の自然を利用可能。 ・出土品の整理作業なども体験可能。 ・広い空間を確保できるため、プログラムに応じた柔軟な利用が可能。
ガイドなど	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員等による専門的なガイドが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等によるボランティアガイドが、遺跡の価値と地域の歴史を案内する。 ・来訪者と地域住民との交流が期待できる。
他施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・十日町市内にある文化観光拠点施設のプラットフォームとなる。 ・市内外の博物館などとネットワークを有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中条地区と下条地区の歴史文化遺産の発信拠点となる。 ・全国の縄文遺跡とのネットワーク作りが可能。
住民等の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館友の会のボランティアが運営を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中条地域を中心に、下条地域の住民等と連携して運営を支える。

3 縄文体験のイメージ

十日町市博物館や博物館友の会等の各種団体、地域の住民と連携し、一年を通して来訪者と交流しながら、多彩な縄文体験プログラムを行うことができる広場とします。



十日町市博物館と連携した縄文体験のイメージ

1 基本的な考え方

① 史跡・広場の価値を守り、高める

- ・ 史跡としての価値を守りながら、適切に広場の管理、運営を行います。
- ・ 広場や建物のデザイン、体験プログラム等の本質を理解し、運営に反映します。
- ・ 利用者のニーズに対応した高品質なサービスを提供します。
- ・ 広場のコンセプトや利用者ニーズに応じた柔軟な管理と運営を行います。

② 史跡・広場の価値を広く発信する

- ・ 来訪者がいつ来ても、笹山遺跡の価値を理解できる広場とします。
- ・ 子どもを含む多様な世代や、訪日・在日外国人にわかりやすく笹山遺跡の価値を発信します。
- ・ 市民や事業者とともに魅力的な体験プログラムを造成して、新たな価値を創出し、広く国内外に発信します。

③ 人手をかけず、効率的に運営する

- ・ 効率的な管理運営を行います。
- ・ 最新の ICT システム（情報通信技術）を活用するなど、人手をかけずに、誰にでもわかりやすい管理・運営方法を検討します。

④ 地域と協働し、持続的に運営する

- ・ 地域との協働による持続的な管理と運営を行い、地域経済の活性化に繋がります。
- ・ 市の財政負担を軽減します。
- ・ 多様な主体の負担による管理・運営を検討します。

2 管理・運営計画

① 施設の公開

- ・ 広場は降雪期を除いて常時開放としますが、ガイダンス施設は開館時間を設定します。
- ・ ガイダンス施設は、エリア毎に時間を設定した開放を検討します。
 - ①常時開放＝ピロティ、トイレ、展望テラスなど
 - ②開館時間を設定＝展示室など
 - ③利用時は開放＝体験室など
- ・ 開館時間は十日町市博物館と同様を基本とします（9:00～17:00）。ただし、夕陽を楽しむ体験プログラムなど、プログラムに応じて開館時間は柔軟に対応します。
- ・ 開館時間はスタッフが常駐し、管理を行います。
- ・ エレベーターは開館時間以外には利用禁止とするなど、管理を考慮した利用とします。
- ・ 展示室は、案内ガイドの配置を検討します。

- ・入館料は有料も視野に入れ検討します。
- ・体験室は、使用料の設定を検討します。

② 体験プログラムの企画・運営

- ・一年を通して、四季の移り変わりを生かした体験プログラムを実施します。
- ・市民や多様な民間事業者と協働して魅力的な体験プログラムを造成します。
- ・笹山遺跡の価値を生かして、収益を得ることができる体験プログラムを企画・運営します。

③ 来訪者に対する笹山遺跡等の案内

- ・屋外案内サインや屋内展示により、いつ来ても（ガイダンス施設閉館時も含めて）遺跡の価値が理解できるようにします。
- ・地域住民等によるボランティアガイドが解説を行うなど、来訪者と市民との交流が生まれる仕組みを検討します。
- ・広場のオープンに合わせて、ボランティアガイドの育成に努めます。

④ 情報発信と集客

- ・体験プログラム等のガイダンス施設での発信に加えて、ホームページや SNS 等でも積極的に発信します。
- ・周辺の歴史文化遺産や人的資源等を生かして、新しい体験プログラムを造成します。
- ・展示の内容は適宜、更新します。
- ・講座等を開催し、周辺の歴史文化遺産に関する普及啓発を行います。

⑤ 地域住民の積極的な利用

- ・地域イベントや住民活動の場として、広場を積極的に活用します。
- ・体験プログラムや案内ガイド等に多様な地域住民が参加して、来訪者を歓迎します。

⑥ 広場の環境保全および日常の清掃・点検・植栽管理

- ・広場の植栽管理は、地元ボランティア等の協力を検討します。
- ・体験プログラムと連動した広場の管理を検討します。
- ・ガイダンス施設の日常的な清掃や点検など、適正な管理を行います。

3 管理・運営体制

(1) 基本的な考え方

基本方針を踏まえて、管理・運営体制には下記の事項が求められます。

- ・遺跡や広場の価値を高める、積極的な運用が可能な体制とする。
- ・遺跡や広場の価値を広く発信し、収益性も目指す体制とする。
- ・継続して地域が主体的に関わることができる体制とする。
- ・民間事業者や地域団体のノウハウ等も活用して、市の財政負担を軽減する体制とする。

(2) 現在の管理・運営体制

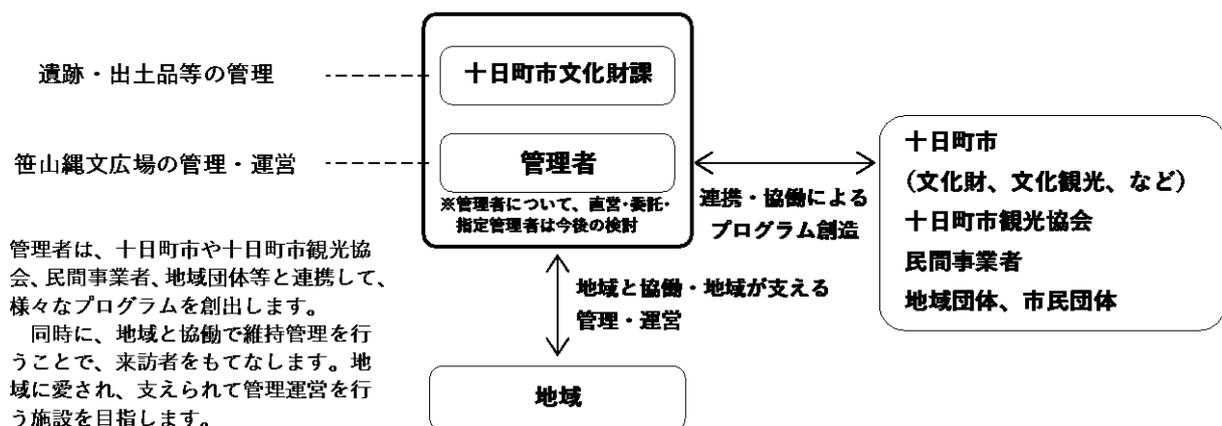
- ・NPO 笹山縄文の里が市より業務委託を受けて、遺跡広場と笹山縄文館の維持管理を行う。
笹山縄文館の清掃、復元竪穴住居の燻煙作業、草刈り、冬季の除雪等
- ・出土品の整理室など建物の一部は市が管理。

(3) 新たな管理・運営体制

現在まで、笹山遺跡広場では地域が主体となった管理・運営が行われてきました。整備後は、より多くの来訪者を迎え入れて、より積極的な活用を図るため、管理・運営体制の発展と充実を図ります。地域団体や民間事業者との協働による体験プログラムを充実させ、収益性を高めるとともに、施設の柔軟な運営を目指します。

管理・運営体制については、直営、一部業務委託、指定管理、それぞれの手法を比較しながら検討を行います。また、広場の活用状況に応じた段階的な運営体制の整備も検討します。

なお、遺跡の調査・保存に関することや、出土品の取扱いに関することは引き続き市が直接管理することとします。



管理・運営体制の考え方

維持管理方法の比較

手法	直 営	一部業務委託	指定管理
概要	市が自ら主体となって管理・運営を行う。	管理・運営業務の一部を民間事業者等に委託し、市が事業主体となる。 契約は単年であることが一般的。	管理権限を、指定を受けた民間事業者等に委任する。 管理者として、利用者からの料金徴収し、収入とすることができる。 契約は複数年となることが多い。
特徴	○行政の意向を反映した運営をしやすい ○公益性の高い事業を実施しやすい △人件費等が割高 △民間のノウハウを活用しづらく、定型的な運営になりやすい ○継続性があり、安定的な施設運営が可能	○行政の意向を反映した運営をしやすい ○事業費の効率的な執行を図ることができる ○行政内職員の業務負担軽減 △コスト削減が可能 △委託内容が限定されると、民間事業者の主体性が発揮しづらい ○継続性があり、安定的な施設運営が可能	○民間の発想で柔軟かつ弾力的な運用が可能。 ○事業費の効率的な執行を図ることができる ○行政内職員の業務負担軽減 ○コスト削減が可能 ○事業者が収益を確保できる（自主事業による事業拡大等も可能） △長期的展望に基づいた継続的・安定的経営が課題

○良い点 △検討を要する点

参考：主な市内施設の管理運営方法・管理者（十日町市 HP 掲載資料より作成、令和 7 年 4 月 1 日現在）

施 設 名	管理運営	管 理 者
越後妻有交流館 越後妻有里山現代美術館・明石の湯	指定管理	特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構
まつだい雪国農耕文化村センター、アート作品及びその敷地	指定管理	特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構
十日町市清津峡渓谷歩道トンネル	指定管理	株式会社なかさと
中条児童遊園地	指定管理	特定非営利活動法人桂公園こどもランド
十日町市川西総合緑地公園、光の館、遊歩道など	指定管理	株式会社まちづくり川西
十日町市市民交流センター・市民活動センター	指定管理	特定非営利活動法人市民活動ネットワークひとサポ
重地大池自然観察広場、清田山キャンプ場	指定管理	特定非営利活動法人 GGG
仙田体験交流館	指定管理	株式会社あいポート仙田
十日町市まつだい郷土資料館	指定管理	特定非営利活動法人越後妻有里山協働機構
十日町市博物館	直営	十日町市（十日町市博物館友の会 [※] ）
越後松之山「森の学校」キョロロ	直営	十日町市（「森の学校」キョロロ友の会 [※] ）

※は市と連携して活動する市民組織

4 地域の参加

広場整備の過程で、継続的な地域住民等との協働の機会を検討します。各過程での具体的なプログラムについては、地元との協議により決定していきます。また、広場およびガイダンス施設の愛称を公募するなど、笹山遺跡に対して市民と来訪者が愛着を持つことができるようにします。以下に、事業の各段階での考え方やイメージを示します。

① 基本設計・実施設計段階

図面や模型を活用したワークショップ等により、利用者や管理・運営者となる住民の意見を設計に反映させることを検討します。現地での意見交換や、整備後の利用を想定した社会実験を行うことで、整備のイメージを具体化し、設計に反映させます。



模型を利用したワークショップ



現場でのワークショップ



プログラムを想定した社会実験

② 施工段階

施設建設や家具製作などに住民が参加し、自分たちの施設として愛着を生みます。また、工事段階で見学会を実施するなど、施設の竣工に向けて地元や関係者の機運を高めていきます。継続したワークショップやイベントを実施するなど、オープン後の活動につなげます。



家具づくりワークショップ



工事中の現場見学会



施工ワークショップ（分じろう）

③ 管理・運営段階

広場と施設の竣工後に、地域や関係者と協働でのオープニングイベントの開催を検討します。広場と施設の愛称を公募するなど、市民の興味・関心を高め、また、広場に対する愛着を深めます。供用開始後も、ボランティアなど多様な住民が運営に参加することで、地域が支え、創造的な地域活動を行う施設を目指します。

第8章 事業計画

1 事業スケジュール

I～IV区で段階的な整備を行います。先行するI区は、国宝指定30周年の令和11年度(2029)オープンを目標に整備を進めていきます。

	I区	II区	III区	IV区
国宝指定25周年 令和6年度(2024)	基本計画			
令和7年度(2025)	基本設計			
令和8年度(2026)	実施設計 (広場・ガイダンス施設)	基本設計 (展示)	運営プログラム の検討・構築	
令和9年度(2027)	ガイダンス施設 建設工事	実施設計 (展示)		
令和10年度(2028)	遺跡広場造成工事 (笹山縄文館解体)	展示工事 (ガイダンス施設)		
国宝指定30周年 令和11年度(2029)	オープン			
↳		↓ 設計・工事 など	↓ 設計・工事 など	
国宝指定35周年 令和16年度(2034)		オープン		
↳				↓ 設計・工事 など
国宝指定40周年 令和21年度(2039)				オープン

2 概算事業費

I区

	事業費	備考
建築設計費(基本・実施)	39,000千円	
広場設計費(基本・実施)	16,000千円	
展示設計費(基本・実施)	5,000千円	
建築工事費(監理費含む)	703,000千円	ガイダンス施設 650 m ² 、外構 2,000 m ²
広場工事費(監理費含む)	243,000千円	広場 7,100 m ² 、縄文館解体・復元堅穴住居移設含
展示工事費(監理費含む)	92,000千円	展示 250 m ²
合計	1,098,000千円	

II区

	事業費	備考
広場設計費(基本・実施)	13,000千円	
広場工事費(監理費含む)	99,000千円	広場 4,400 m ²
合計	112,000千円	

III区

	事業費	備考
建築設計費(基本・実施)	32,000千円	
広場設計費(基本・実施)	32,000千円	
建築工事費(監理費含む)	311,000千円	遺構展示施設 400 m ²
広場工事費(監理費含む)	103,000千円	広場 4,500 m ²
合計	478,000千円	

I～III区の総事業費 1,688,000千円

附編 笹山縄文広場整備検討委員会の記録

1 委員名簿

	氏名	所属等
委員長	井口 智裕	雪国観光圏 代表理事
副委員長	宮尾 亨	新潟県立歴史博物館 専門研究員
	小海 信哉	日本駐車場開発株式会社 社長室長
	庭野 真弓	十日町市観光協会 主任
	岩田 祐子	中条飛渡地域協議会 事務局長
	阿部 美記子	伊乎乃の里 縄文サポートクラブ 代表
	小林 誠	越後松之山「森の学校」キョロロ 学芸員

2 開催経過

回	日時	会場	協議内容
第1回	令和6年8月7日	十日町市博物館講堂 笹山遺跡 笹山縄文館	(1) 笹山遺跡をめぐる経緯 (2) 笹山遺跡の活用状況 (3) 基本理念・基本方針 (4) 計画策定スケジュール
第2回	令和6年10月1日	十日町市博物館講堂	(1) 遺跡の現状と課題の整理 (2) ゾーニング (3) 必要な機能と施設
第3回	令和6年10月30日	十日町市博物館講堂	(1) I区・広場と施設の配置について (2) 施設の機能と外観について
第4回	令和6年12月4日	十日町市博物館講堂	(1) I区の整備 (2) 体験プログラム
第5回	令和7年1月31日	十日町市博物館講堂	(1) 博物館との周遊 (2) 管理・運営計画 (3) 全体計画 (4) 基本計画目次構成
第6回	令和7年2月27日	十日町市博物館講堂	(1) 基本計画案

3 事務局名簿（令和7年3月31日時点）

氏名	所属
渡辺 正範	十日町市教育委員会 教育長
滝沢 直子	十日町市教育委員会 教育文化部長
鈴木 政広	十日町市教育委員会 教育文化部副参事
菅 沼 亘	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課長（博物館長・学芸員）
笠井 洋祐	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課長補佐（埋蔵文化財係長・学芸員）
村山 歩	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課副参事（博物館副館長・業務係長）
春川 祐二	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課副参事（文化財保護係長）
石原 正敏	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課副参事（学芸員）
高橋 由美子	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課文化財保護係主査（学芸員）
阿部 敬	十日町市教育委員会 教育文化部文化財課埋蔵文化財係主査（学芸員）
栗原 善雄	十日町市産業観光部 文化観光課長補佐

笹山縄文広場整備基本計画

発行 令和7年(2025)7月

編集 十日町市教育委員会事務局 教育文化部 文化財課

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1丁目448番地9

TEL:025-757-5531 FAX:025-757-6998